仙台市文化財調査報告書第406集

宮城県仙台市

郡山遺跡 32

平成23年度発掘調査概報
郡山遺跡・与兵衛沼窯跡

2012.3

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第406集

宮城県仙台市

郡山遺跡 32

平成23年度発掘調査概報
郡山遺跡・与兵衛沼窯跡

2012.3

仙台市教育委員会

序　文

郡山遺跡の発掘調査事業は、昭和55年の国庫補助事業による確認調査を開始して以来31年目となりました。平成18年７月に「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡」として国史跡に指定され、今後の歴史公園を中心とした街づくりに大きな一歩を踏み出しているところであります。32年のながきにわたり、発掘調査の継続が出来ましたのも遺跡の究明にご助言をいただいた先学の諸氏や、地元の地権者の皆様からのご協力があったからと感じております。

本年度は、郡山遺跡に関連する官衙とみられる大野田官衙遺跡と愛宕山横穴墓群等での発掘調査等を予定していましたが、平成23年３月11日に発生した東日本大震災により、市内の各所で大きな被害が出たことから、計画の変更をしました。したがって、今年度は個人の住宅建替えに伴う事前調査のみに限り実施することとしております。郡山遺跡だけでも例年の３倍以上の調査となっております。早期に復旧、復興がはかられ、市民生活の回復とともに郡山遺跡を初めとした重要遺跡の調査再開も待ち望まれるものであります。

これまでの調査成果が遺跡保護と整備、さらに活用に生かされる資料となるよう努めてまいります。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年３月

仙台市教育委員会
教育長　青沼　一民

例　言

1．本書は国庫補助事業による市内遺跡調査のうち、郡山遺跡内の個人住宅建築工事に関連した発掘調査と、与兵衛沼窯跡での遺構、遺物の分布調査報告である。

2．本概報は調査速報を目的としている。執筆は以下のように分担した。

第１章　佐藤正弥　　第２章　大久保弥生

第３章　長島栄一・佐藤正弥　　第４章　佐藤正弥

3．本書の作成に関わる作業は、以下のように分担し、編集は大久保弥生が行なった。

遺物写真撮影：佐藤正弥

遺物観察表・遺構註記表作成：大久保弥生・佐藤正弥

図版作成：大久保弥生・佐藤正弥・水野一夫

4．本書の内容は既に公開されている「平成23年度宮城県遺跡調査発表会発表要旨」に優先する。

5．本書に係わる出土遺物、実測図、写真などは仙台市教育委員会が保管している。

凡　例

1．断面図の標高値は、海抜高度を示している。但し、海抜高度及び座標系は、平成23年（2011）３月11日の東日本大震災以前の値を使用している。

2．第２章の図中に示した座標系は、郡山遺跡内に昭和56年に設定し、平成８年度に改訂した任意の座標系（X=0、Y=0を通る磁北線（1984年頃の偏角で、真北から6°44′7″西傾））で表記している。

3．文中の方位は、真北を基準としている。また、図中の方位に「☆」を付したものは真北を示し、これ以外の方位は座標系に沿った磁北を示している。

4．遺構の略称は次のとおりである。遺構番号はこれまで調査された調査区を通しての番号順である。但し、ピットは調査区毎となっている。

SA：柱列・材木列　　SB：掘立柱建物跡　　SD：溝跡　　SI：竪穴住居跡　　SK：土坑

SX：性格不明遺構　　Pit：ピット・柱穴

5．建物跡模式図中の記号は、以下の基準により図示した。

●：柱痕跡が検出されたもの　　○：柱穴掘り方のみ検出されたもの

6．遺物の略号は次のとおりである。

A：縄文土器　　B：弥生土器　　C：土師器（ロクロ不使用）　　D：土師器（ロクロ使用）

E：須恵器　　F：丸瓦・軒丸瓦　　G：平瓦・軒平瓦　　K：礫石器　　N：鉄製品

7．土師器実測図における網掛けは、黒色処理が施されていることを示している。その他の付着物や痕跡は図上に表記している。

8．遺物観察表中の法量で（　）が付いた数字は、図上で復元した推定値である。

9．土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原1989）を使用した。

10．第１図は、1：10000「仙台駅」、「長町」、「西多賀」を使用し作成した。また、第３章第48図は、『仙台市文化財報告書第366集　与兵衛沼窯跡』第７図を引用し、加筆したものである。

11．本文中の「灰白色火山灰」は県内で広域に分布する「灰白色火山灰」（山田・庄子1980）と同義である。この火山灰は現在「十和田a火山灰（To－a）」（大池1972）と推定されており、降下年代は西暦915年とされている（町田・新井1992、小口2003など）。

目　次

第１章　はじめに

Ⅰ．郡山遺跡・仙台平野の遺跡群の調査体制…… 1

Ⅱ．調査計画と実績

１．調査計画…… 1

２．調査実績…… 2

第２章　郡山遺跡

Ⅰ．第204次発掘調査

１．調査経過と調査方法…… 4

２．出土遺物…… 4

Ⅱ．第205次発掘調査

１．調査経過…… 5

２．調査方法と基本層序…… 8

３．発見遺構と出土遺物…… 8

４．まとめ…… 15

Ⅲ．第207次発掘調査

１．調査経過…… 20

２．調査方法と基本層序…… 20

３．発見遺構と出土遺物…… 21

４．まとめ…… 21

Ⅳ．第208次発掘調査

１．調査経過…… 22

２．調査方法と基本層序…… 23

３．発見遺構と出土遺物…… 25

４．まとめ…… 25

Ⅴ．第210次発掘調査

１．調査に経過…… 28

２．調査方法と基本層序…… 28

３．発見遺構と出土遺物…… 29

４．まとめ…… 29

Ⅵ．第211次発掘調査

１．調査経過…… 30

２．調査方法と基本層序…… 30

３．発見遺構と出土遺物…… 31

４．まとめ…… 31

Ⅶ．第212次発掘調査
1．調査経過…… 32
2．調査方法と基本層序…… 32
3．発見遺構と出土遺物…… 33
4．まとめ…… 33
Ⅷ．第213次発掘調査
1．調査経過…… 35
2．調査方法と基本層序…… 35
3．発見遺構と出土遺物…… 36
4．まとめ…… 36
Ⅸ．第214次発掘調査
1．調査経過…… 38
2．調査方法と基本層序…… 38
3．発見遺構と出土遺物…… 39
4．まとめ…… 39
Ⅹ．第215次発掘調査
1．調査経過…… 40
2．調査方法と基本層序…… 41
3．発見遺構と出土遺物…… 41
4．まとめ…… 41
第３章　与兵衛沼窯跡
1．調査経過と調査方法…… 42
2．発見遺構と出土遺物…… 42
3．まとめ…… 42
第４章　調査成果の普及と関連活動 …… 44

第１章　はじめに

Ⅰ．郡山遺跡・仙台平野の遺跡群の調査体制

調査主体　仙台市教育委員会

調査担当　文化財課長　吉岡恭平

整備活用係　係長　長島栄一、主査　木村浩二、主任　熊谷智顕、主事　大久保弥生、文化財教諭　佐藤正弥、文化財教諭　菊地貴博

調査調整係　主幹兼係長　佐藤甲二、主査　荒井　格、主事　小泉博明、主事　廣瀬真理子、主事　及川謙作、文化財教諭　石山智之、文化財教諭　吉野信、文化財教諭　川本剛史、文化財教諭　佐藤洋平、文化財教諭　橋本勇人

調査指導係　主査　主浜光朗、主事　水野一夫、文化財教諭　佐藤高陽

発掘調査、整理作業を適正に実施するため、「郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導員会」を設置し、指導・助言を受けた。

委 員 長　今泉隆雄（東北大学名誉教授　古代史）

副委員長　進藤秋輝（前東北歴史博物館館長　考古学）

委　　員　岡田茂弘（国立歴史民俗博物館名誉教授　考古学）

委　　員　桑原滋郎（多賀城市文化財保護委員会会長　考古学）

委　　員　須藤　隆（東北大学名誉教授　考古学）

委　　員　宮本長二郎（別府大学非常勤教授　建築学）

委　　員　渡部育子（秋田大学教育文化学部教授　古代史）

Ⅱ．調査計画と実績

１．調査計画

平成23年度に計画された調査は、国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」の一部として郡山遺跡、大野田官衙遺跡、愛宕山横穴墓群、与兵衛沼窯跡を対象としていた。郡山遺跡については、個人住宅建築に対応した調査である。

郡山遺跡では第５次５ヶ年計画終了後に、平成17年度から補足調査を実施してきたが、平成20年度から郡山遺跡の南西1.5㎞にある大野田官衙遺跡で、郡山遺跡Ⅱ期官衙と関連すると考えられる官衙跡が発見され、その範囲と性格究明が急務となったため、平成21年度から郡山遺跡の補足調査を休止して調査を実施してきた。また、愛宕山横穴墓群では装飾横穴墓が隣接する地点で道路改良の計画が持ち上がったため、遺構の有無を確認するための事前調査が必要となった。さらに与兵衛沼窯跡では、既調査範囲外での窯跡の分布を確認するため、磁気探査を実施することが考えられた。今年度の内容については、平成23年３月４日に開催された郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会において審議がなされ了承を得ていた。しかし、その後発生した東日本大震災への対応に鑑み、個人住宅建築に係わる調査に特化して事業を遂行することとなった。

発掘調査総経費は27,946,275円、国庫補助金額13,973,137円の予算で計画し、当初は郡山遺跡の個人住宅対応に2,371,205円、「仙台平野の遺跡群」として郡山遺跡以外の市域全体の個人住宅対応に7,430,000円、仙台城跡に10,516,000円とした。この後、東日本大震災により大幅に計画を変更している。ここでは以下の発掘調査の成果報告にとどめることとして調査計画とした。

調査次数	調査地区	調査予定面積	調査予定期間	調査原因
郡山遺跡	官衙中心部など５箇所	200㎡	H23年５月～H24年３月	個人住宅建築

表１　平成23年度発掘調査計画

2．調査実績

郡山遺跡については、震災後の住宅建替えが増加し、個人住宅建築等で14箇所の調査を実施した。また、開発に伴う第206次調査及び第209次調査も実施し、これらは『仙台市文化財調査報告書第405集　郡山遺跡他』で報告している。

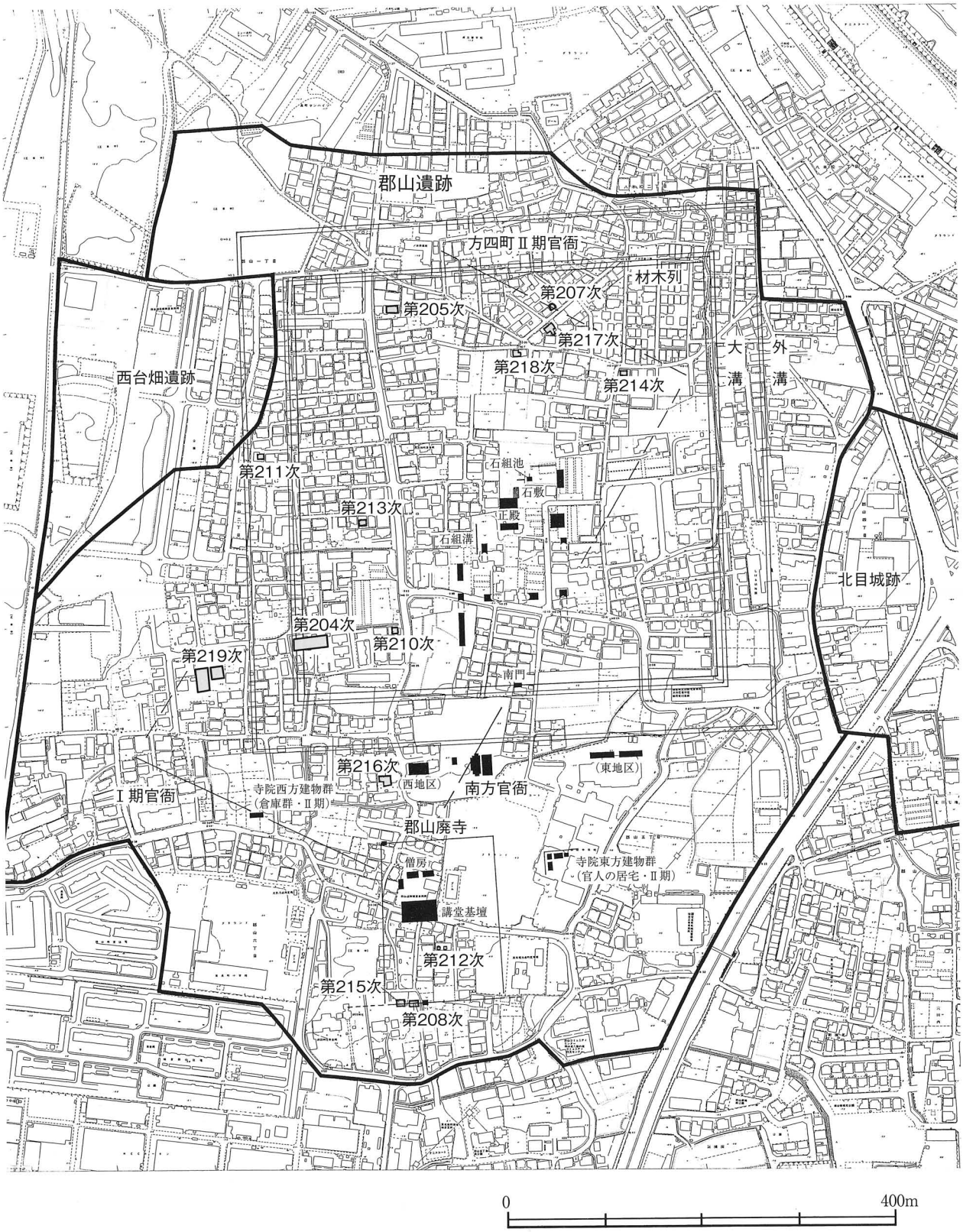
上記の発掘調査とは別に、仙台市北部の台原・小田原丘陵に位置する与兵衛沼で、水利施設の破損により新たな窯跡を十数基が沼底面より露出した。このため、与兵衛沼窯跡での緊急の遺構・遺物確認調査を実施した。

なお、東日本大震災による個人住宅の建替えに伴う発掘調査を通年で行なわざるをえなかったため、報告書作成においては遺構・遺物の報告を速報することを主とし、年代等の検討・報告を、震災等の対応が縮小した時期に改めて行なうことで県・文化庁より了解を得ている。

遺跡名・調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡　第204次	Ⅱ期官衙南西部	—	4月12日～4月13日	個人住宅解体	工事立会調査
郡山遺跡　第205次	Ⅱ期官衙北西部	67㎡	5月9日～6月6日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡　第207次	Ⅰ期官衙北辺	6㎡	6月20日～6月21日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第208次	郡山廃寺南部	44㎡	7月13日～9月21日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第210次	Ⅱ期官衙南西部	12㎡	9月22日～9月26日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第211次	Ⅱ期官衙西部	6㎡	9月27日～9月29日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第212次	郡山廃寺中央部	2㎡	10月19日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第213次	Ⅱ期官衙西部	6㎡	11月7日～11月8日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第214次	Ⅱ期官衙北東部	4㎡	12月5日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第215次	郡山廃寺南部	30㎡	12月6日～12月20日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第216次	南方官衙西地区	56㎡	1月10日～1月19日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第217次	Ⅰ期官衙北部	22㎡	1月10日～1月16日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡　第218次	Ⅰ期官衙北部	32㎡	1月30日～2月6日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡　第219次他	Ⅰ期官衙南西部	90㎡	3月5日～3月19日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
与兵衛沼窯跡	与兵衛沼北岸	—	6月24日、8月4日	遺構確認調査	郡山遺跡ほか調査

表2　平成23年度発掘調査実績

第1図　調査遺跡位置図


郡山遺跡
方四町Ⅱ期官衙
材木列
第207次
第205次
第217次
第218次
第214次
大溝
外溝
西台畑遺跡
第211次
石組池
石敷
第213次
正殿
石組溝
北目城跡
第204次
第210次
第219次
南門
第216次
(西地区)
(東地区)
南方官衙
Ⅰ期官衙
寺院西方建物群
(倉庫群・Ⅱ期)
郡山廃寺
僧房
寺院東方建物群
(官人の居宅・Ⅱ期)
講堂基壇
第212次
第215次
第208次
0
400m

第２図　郡山遺跡全体図

第２章　郡山遺跡

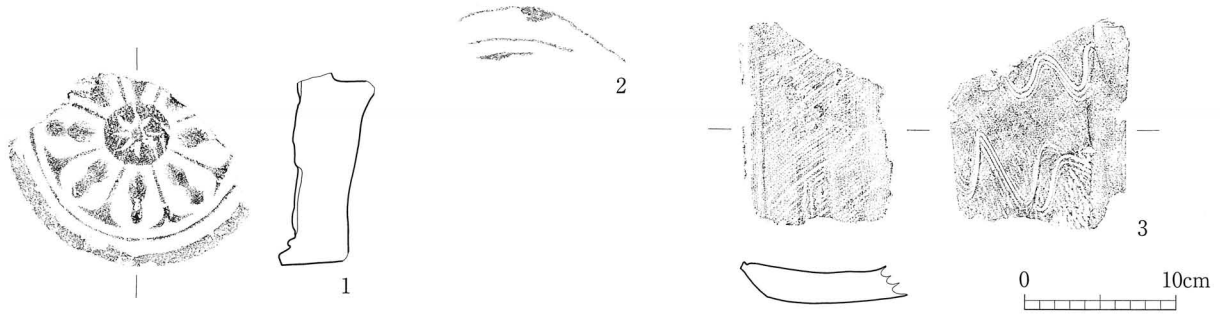
Ⅰ　第204次発掘調査

１．調査経過と調査方法

第204次調査は、宅地造成に伴い、平成23年４月６日付で仙台市太白区郡山２丁目117－１における「埋蔵文化財の取り扱いについて（協議）」が提出されたことを受けて実施した。この地点は昭和20年代に、郡山廃寺跡より出土した多くの古瓦が敷地内に運ばれ、家屋の基礎として使用されたことが確認されていた。家屋の解体及び造成工事に伴う作業に伴い、表土中に含まれる瓦が失われる可能性があったため、遺跡への影響のない工事であるが、建物基礎撤去作業時に遺物を採集することとした。調査は平成23年４月12日から翌13日まで実施した。

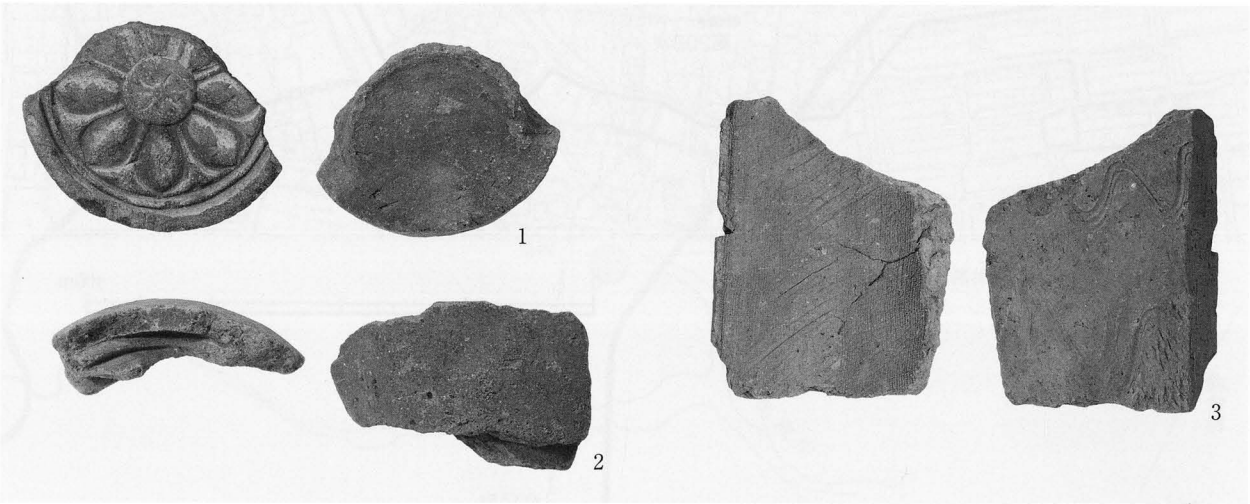
２．出土遺物

敷地内の表土層中から軒丸瓦片２点、土師器片１点、須恵器片６点の他に、丸瓦や平瓦が平箱で60箱出土し、そのうち軒丸瓦片２点と平瓦を図示した。軒丸瓦片はいずれも単弁蓮華文軒丸瓦で、瓦当の直径や間弁の割り付けの様相から、これまでの調査で出土している軒丸瓦A種と考えられる（註１）。平瓦の凸面には波状文が施されている（註２）。本来は郡山廃寺講堂跡・僧房跡付近で出土したものと考えられ、いずれも表土層中の二次堆積遺物である。



No.	登録番号	種別	器形	出土地点	法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	F-105	瓦	軒丸瓦	表土	直径：(17.9)　中房径：4.3　厚さ：4.4	単弁蓮華文	瓦当側面：ケズリ→ナデ　瓦当裏面：ケズリ→ナデ	1
2	F-104	瓦	軒丸瓦	表土		単弁蓮華文	瓦当側面：ケズリ→ナデ　瓦当裏面：ケズリ→ナデ	2
3	G-133	瓦	平瓦	表土	縦：13.7　横：13.7　厚さ：2.0	凸面：縄叩き→ナデ→波状沈線	布目痕	3

第３図　第204次調査出土遺物



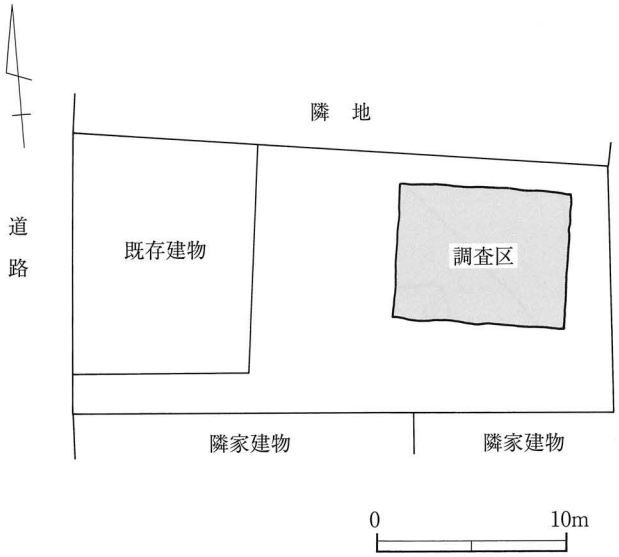
写真図版１　第204次調査出土遺物

Ⅱ　第205次発掘調査

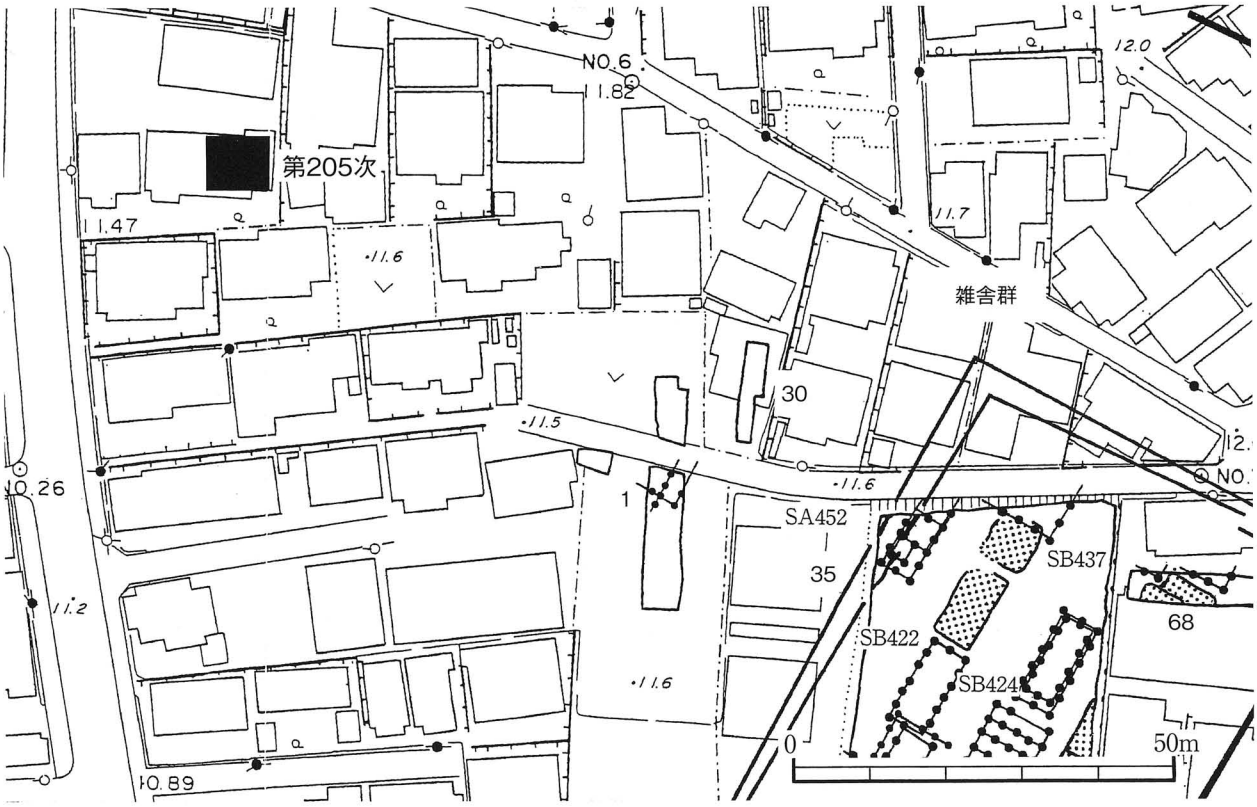
1．調査経過

第205次調査は、個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年１月14日付で仙台市太白区郡山３丁目14－35における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

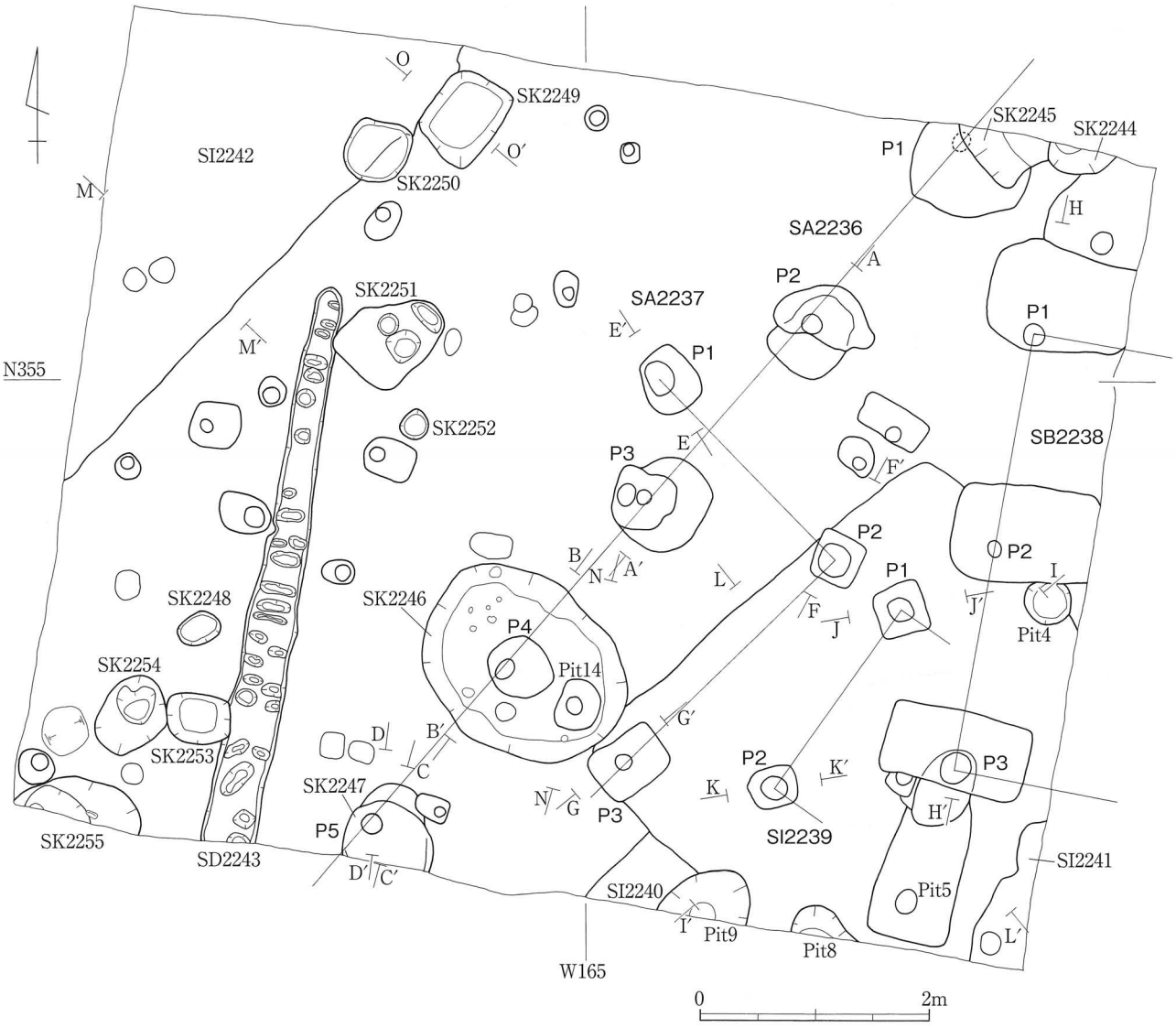
平成23年５月９日に、敷地内で住宅建築範囲の東半部を調査区として調査を開始した。遺構検出作業と精査等を実施したところ、遺構の密度が高く、住宅建築範囲の西半部にも多くの遺構が検出される可能性が濃厚となった。そのため、東部の調査を５月20日に調査を終え、埋め戻しを行った後、西半部の調査を引き続き行うこととした。６月６日に西半部の調査を終了し、重機により埋め戻しを行った。

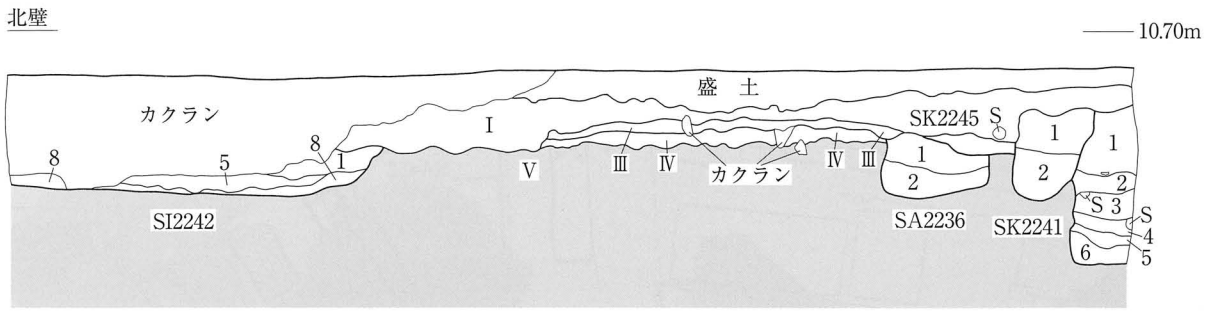


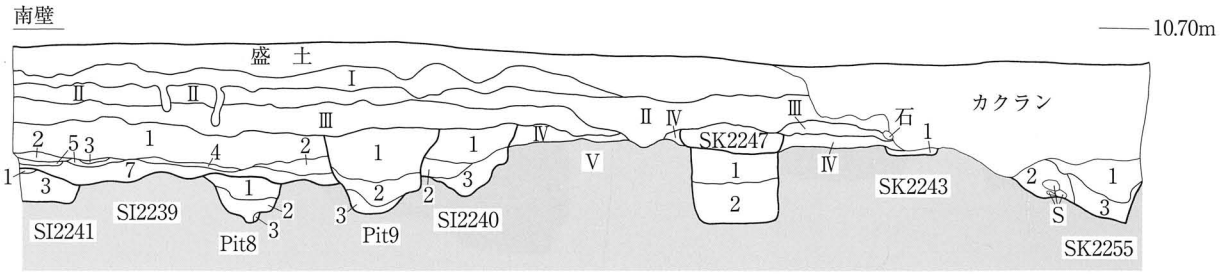
第４図　第205次調査区配置図（S＝1/400）



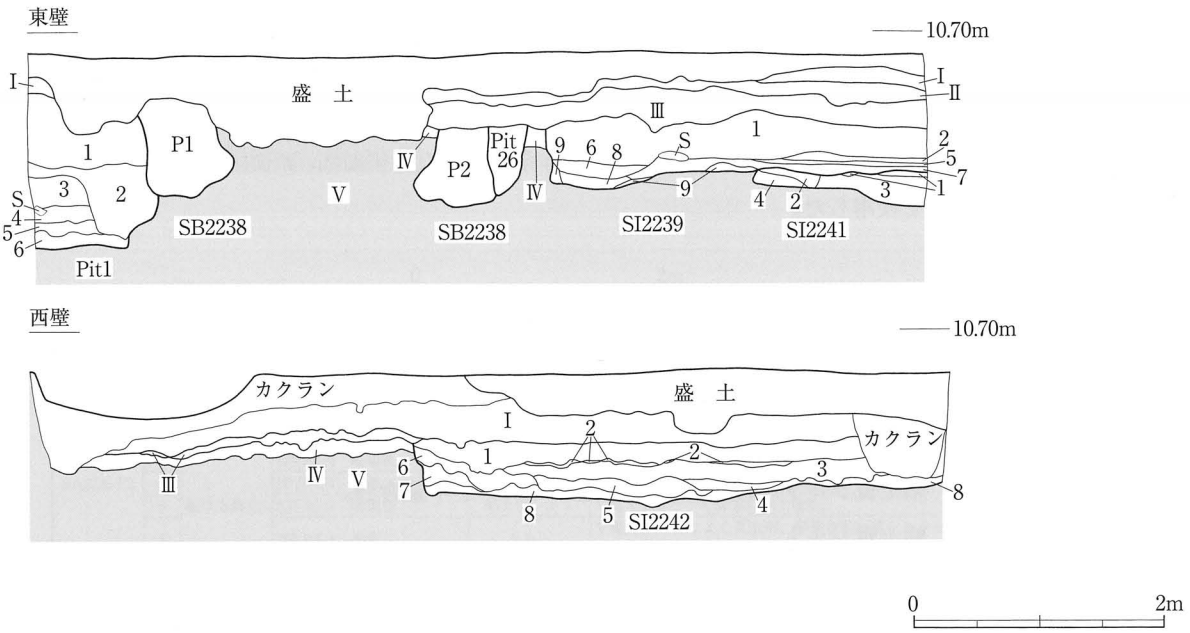
第５図　第205次調査区位置図







第６図　第205次調査区平・断面図（S＝1/60）



	層　位		色　調	土　質	備　　考
基本層	Ⅰ	耕作土	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	Ⅱ	旧表土	10YR2/1黒褐色	粘土質シルト	
	Ⅲ		10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	径1～2cmのⅣ層土ブロックを中量含む。
	Ⅳ		10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	
	Ⅴ		10YR5/8黄褐色	粘土質シルト	

遺構名	層　位		色　調	土　質	備　　考
SA2236-P1	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	
	2		10YR3/3黒褐色	粘土質シルト	径5～10cmのⅤ層ブロックを多量に含む。
SA2236-P5	1	抜取	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	
	2	掘り方埋土	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを微量、Ⅴ層粒を多量に含む。
SB2238-P1	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物、Ⅴ層土粒を少量含む。
SB2238-P2	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	小ブロック状の炭化物を微量含む。
SI2239	1	堆積土	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト土粒を少量含む。
	2		10YR4/4褐色	粘土質シルト	炭化物、黒褐色粘土質シルト土粒を中量含む。
	3		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト土ブロックを多量に含む。
	4		10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土を微量含む。機能時堆積土。
	5	貼床	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土をラミナ状に含む。
	6	掘り方埋土	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	径3cmの黄褐色粘土質シルト土を多量に含む。
	7		10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	径3cmの暗褐色土を多量に含む。
	8		10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	径1～3cmの暗褐色土を多量に含む。
	9		10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	径1～3cmの暗褐色土を少量含む。
SI2240	1		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	
	2		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土粒を極少量含む。
	3		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土粒と同ブロックを極少量含む。
SI2241	1	貼床	10YR5/2灰褐色	粘土質シルト	
	2	焼土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	径1～2cmの焼土ブロックを多量に含み、径5mm～1cmの炭化物を少量含む。
	3		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックを多量に含む。
	4		10YR3/5暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土粒、Ⅴ層土ブロックを中量含む。
SI2242	1	堆積土	10RY3/3暗褐色	粘土質シルト	
	2	貼床	10YR4/1灰褐色	粘土質シルト	
	3	掘り方埋土	10RY3/3暗褐色	粘土質シルト	径3cmの褐色粘土質シルト土ブロックを多量含む。
	4		10YR5/1灰褐色	粘土質シルト	径1cmの褐色粘土質シルト土ブロックを少量含む。
	5		10YR4/4褐色	粘土質シルト	径1cmの黒褐色粘土質シルト土ブロックを中量含む。
	6		10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	径1cmの褐色粘土質シルト土ブロックと黒色シルト土ブロックを多量含む。
	7		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	径1cmの褐色シルト土粒を少量含む。
	8		10YR4/4褐色	粘土質シルト	

遺構名	層　位		色　調	土　質	備　　考
SD2243	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	径1cmのⅤ層土ブロックを少量含む。
SK2244	1		10YR4/4褐色	シルト	
	2		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	径5～10cmのⅤ層土ブロックを多量に含む。
SK2247	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	径1cmの黄褐色粘土質シルト土ブロックを少量、炭化物粒を微量含む。
SK2254	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	径1～3cmのⅤ層土ブロックを中量含む。
SK2255	1		10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	径1cmのⅤ層土ブロックを少量含む。
	2		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土を微量含む。
	3		10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	径3cmのⅤ層土ブロックを少量含む。
Pit1	1	抜取	10RY3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土ブロックを極少量含む。
	2		10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を少量，黄褐色粘土質シルト土ブロックを部分的に多く含む。拳大の礫を含む。
	3	堀り方埋土	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土ブロックを極少量含む。
	4		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト土ブロックをやや含む。
	5		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト土ブロックを少量含む。
	6		10YR5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土を主体とし、暗褐色シルト粒をわずかに含む。
Pit8	1		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土を少量含む。
	2		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックを極少量含む。
	3		10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土を主体とし、暗褐色粘土シルト粒を極少量含む。
Pit9	1		10RY3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト土粒を極少量含む。
	2		10YR4/4褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト土ブロック、黒褐色シルト土ブロックを含む。
	3		10YR5/6黄褐色	砂質シルト	
Pit26	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	径3cmのⅤ層土ブロックを微量含む。

第７図　第205次調査区断面図（S＝1/60）

2．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

住宅建築範囲の全面を調査区として設定した（南北７ｍ×東西９ｍ）。土置き場を考慮し、調査区を東西に分け、重機により盛土及び耕作土等を除去後、Ⅴ層上面で遺構検出作業を行った。平面図、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。

(2) 基本層序

調査区は、盛土が20～50cmあり、その下に旧耕作土であるⅠ層、その下に旧表土と考えられるⅡ層がある。遺構は、Ⅴ層上面で検出した。

Ⅰ層　10YR4/3にぶい黄褐色　粘土質シルト。旧耕作土。

Ⅱ層　10YR2/1黒褐色　粘土質シルト。旧表土と考えられる。

Ⅲ層　10YR5/6黄褐色　粘土質シルト。径1～2cmのⅣ層ブロックを中量含む。

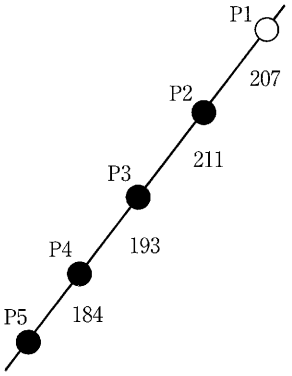
Ⅳ層　10YR3/1黒褐色　粘土質シルト。

Ⅴ層　10YR5/8黄褐色　粘土質シルト。

3．発見遺構と出土遺物

今回の調査で発見された遺構は、一本柱列１列、掘立柱建物跡１棟、柱列１列、竪穴住居跡４軒、溝跡１条、土坑８基、ピットなどである。

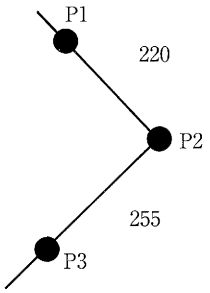
【SA2236一本柱列】調査区東寄りに、北東－南西方向に並ぶ５基の柱穴を検出した。方向は、N-35°-Eである。検出長は4.25mで、柱間寸法は184～211cm、柱痕跡はP2・P3・P4・P5で確認でき、直径は13～18cmである。柱穴掘り方は、抜き取り穴によって全形が不明瞭なものもあるが、円形あるいは不整円形を呈している。SA2236-P2・P5には、柱抜き取り穴が伴う。SA2236-P3はP10よりも古く、SA2236-P4はSK2246土坑よりも古く、SA2236-P5はSK2247土坑よりも古い。



第８図　SA2236模式図

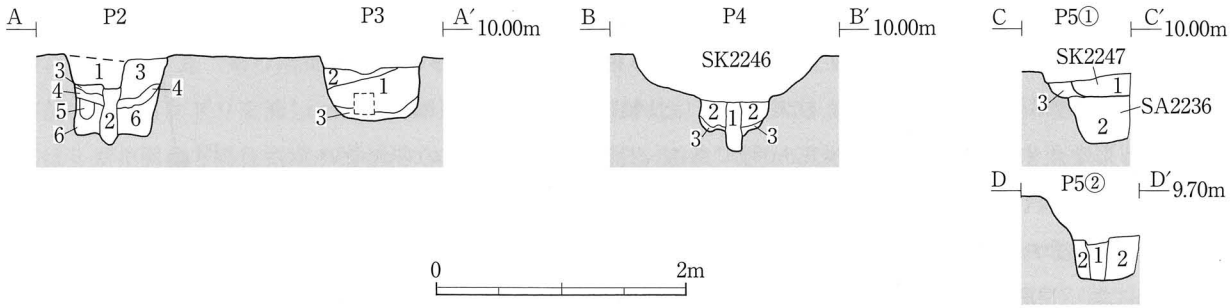
遺物は、P1・P2・P5の掘り方埋土から土師器の小破片が出土している。SA2236-P3では、掘り方埋土から土師器の小破片、２層中よりC-1020土師器坏（第11図１）、肩部に段があり、段の直下にカキメが施されたE-540須恵器破片（第11図２）が出土している。E-540須恵器は、外面に自然釉がかかっており、割れ口の一部にわずかに立ち上がりが認められることから、平瓶などの瓶類の可能性がある。SA2236-P4からは、（頸部にくびれがなく、口縁部がやや内湾し、）内外面に黒色処理が施されたC-1021土師器鉢の口縁部破片（第11図３）、体部が緩やかに外傾し、外面の口縁部と体部の境に稜があり内外面に漆が塗られたC-1022土師器坏（第11図４）が出土している。C-1021とC-1022は、その特徴から関東系土師器とされるものである（註３）。

【SA2237柱列】調査区中央付近で、３基の柱穴を確認した。N-50°-Wの方向にP1、P2が並び、N-39°-Eの方向にP2、P3が並ぶ。柱間寸法はP1、P2間で220cm、P2、P3間で255cmである。柱穴掘り方は、隅丸方形や隅丸長方形を呈している。柱痕跡はP1とP3で確認でき、直径はそれぞれ13cmと30cmである。P2では、柱痕跡は確認されなかったが、柱穴掘り方よりも規模が小さく、円形に掘り込まれた遺構が認められ、柱抜き取り穴と考えられる。



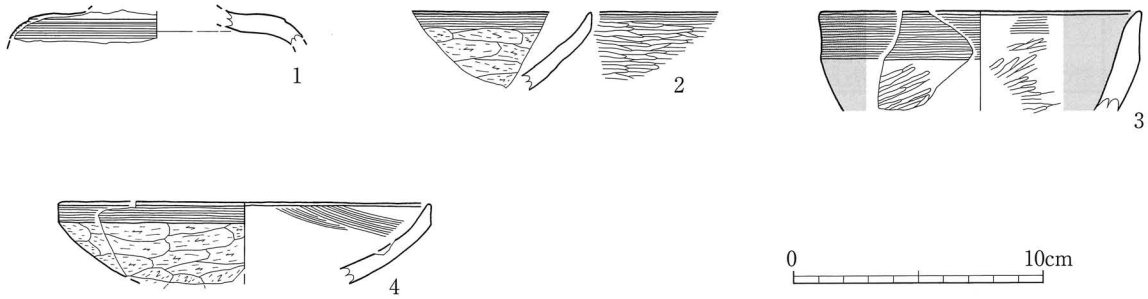
第9図　SA2237模式図

遺物は、P1の柱掘り方埋土中から土師器の小破片と鉱滓、P2とP3の掘り方埋土中から土師器の小破片が出土している。



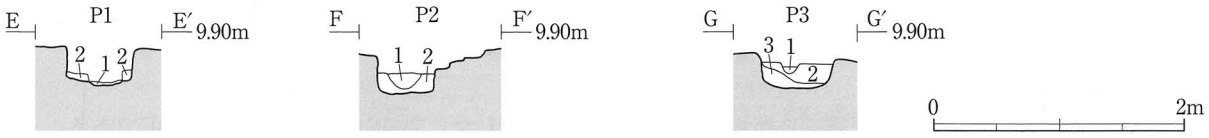
遺構名	層位		色調	土質	備考
SA2236-P1	1		10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
	2		10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックを多量に含む。
SA2236-P2	1	抜取穴	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト土ブロックを多量に含む。
	2	柱痕跡	10YR3/2 黒褐色	粘土	
	3	堀り方埋土	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト土を少量含む。
	4		10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックをやや多く含む。
	5		10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックを非常に多く含む。
	6		10YR4/4 褐色	シルト	Ⅴ層土に非常によく似るが、暗褐色粘土質シルト土を極わずかに含み、しまりが若干強い。
SA2236-P3	1	柱痕跡	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックをやや多く含む。
	2	堀り方埋土	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土粒をわずかに含む。
	3		10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層粘土質シルト土粒を若干、炭化物を極少量含む。
SA2236-P4	1	柱痕跡	10YR2/1 黒色	シルト質粘土	褐色粘土質シルト土ブロックを多く含む。
	2	堀り方埋土	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土ブロックを中量含む。
	3		10YR2/1 黒色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土ブロックを少量含む。
SA2236-P5	1	柱痕跡	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	2	堀り方埋土	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土を互層に含む。
	3	抜取穴	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト土ブロックを少量含み、炭化物を微量含む。

第10図　SA2236断面図（S＝1/60）



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点		法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	E-538	須恵器	蓋	SA2236-P3	堀り方埋土		体部：ロクロナデ　自然釉付着　肩部：カキメ	体部：ロクロナデ	4-1
2	C-1020	土師器	坏	SA2236-P3	堀り方埋土		口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ	口縁部：ヨコナデ　体部：ミガキ	4-2
3	C-1021	土師器	鉢	SA2236-P4	堀り方埋土	口径：(12.8)	口縁部：ヨコナデ　体部：ミガキ　黒色処理	口縁部：ヨコナデ　体部：ミガキ　黒色処理	4-3
4	C-1022	土師器	鉢	SA2236-P4	堀り方埋土	口径：(14.8)	口縁部：ヨコナデ　体部：ミガキ　漆仕上げ	体部：ナデ　漆仕上げ	4-4

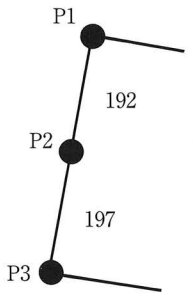
第11図　SA2236出土遺物



遺構名	層位		色調	土質	備考
SA2237-P1	1	柱痕跡	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土粒を若干含む。
	2	堀り方埋土	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックを多く含む。小礫を極少量含む。
SA2237-P2	1	柱痕跡	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト土ブロックを中量含む。
	2	堀り方埋土	10YR5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土ブロックを少量含む。
SA2237-P3	1	柱痕跡	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を極少量含む。
	2	堀り方埋土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックを中量含む。
	3	堀り方埋土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	Ⅴ層土ブロックを非常に多く含む。

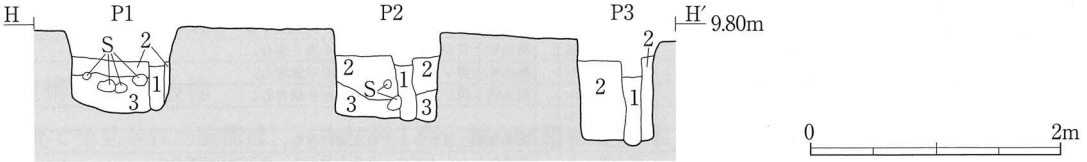
第12図　SA2237断面図（S＝1/60）

【SB2238掘立柱建物跡】梁行２間もしくは２間以上（柱間寸法187～195cm、平均191cm）で、桁行は不明であるが、柱穴の検出状況から東に延びる建物跡と推定される。方向は、西桁行でN-4°-Eである。柱穴掘り方は長軸120～125cm、短軸68～93cmの隅丸長方形を呈する。柱痕跡は直径15cm程である。柱抜き取り穴は認められない。Pit1・Pit4より古く、SI2239竪穴住居跡よりも新しい。



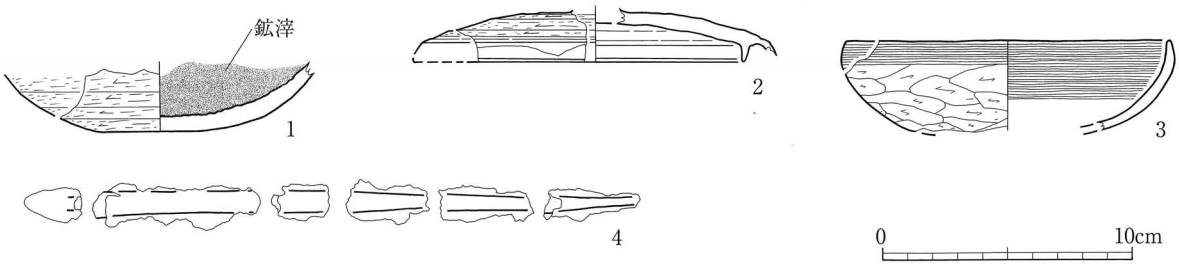
第13図　SB2238模式図

遺物は、それぞれの柱穴掘り方埋土中から土師器、須恵器の破片が多数と鉄製品が１点出土した。P2掘り方埋土からは、底部内面に鉱滓が薄く融着しているE-539須恵器の破片（第15図２）が２点出土した。これらは接合しないが、調整や胎土から同一個体である。器種は、坏もしくは瓶類の底部と考えられる。同じくP2から、半球形を呈し、胎土の色調が橙色を呈したC-1023土師器の破片（第15図３）や、復元径が10cmで、内面にかえりを伴うE-540須恵器蓋（第15図１）が出土した。P3の掘り方埋土中からはN-135鉄製品（第15図４）が出土した。全体の形状は不明瞭であるが、刀子あるいは鉄鏃と考えられる。



遺構名	層位		色調	土質	備考
SA2238-P1	1	柱痕跡	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	V層土粒、炭化物を少量含む。
	2	堀り方埋土	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	V層土ブロックをやや多く、拳大の円礫を少量含む。
	3	堀り方埋土	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを含み、炭化物を若干含む。
SA2238-P2	1	柱痕跡	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物の小ブロックを若干含む。
	2	堀り方埋土	10YR5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト	V層土主体の層（V層よりもしまりのある）、黒褐色粘土を極少量含む。
	3	堀り方埋土	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	V層粘土質シルト土ブロックを含み、拳大の円礫を少量含む。
SA2238-P3	1	柱痕跡	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを含み、炭化物を極少量含む。
	2	堀り方埋土	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを含み、炭化物、小礫～拳大の円礫を少量含む。

第14図　SB2238断面図（S＝1/60）



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点		法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	E-539	須恵器	フラスコ形長頸壺	SB2238-P1	堀り方埋土	底径：(5.8)	ロクロナデ→回転ケズリ	ロクロナデ　鉱滓付着	4-5
2	E-540	須恵器	蓋	SB2238-P2	堀り方埋土	口径：(14.6)	ロクロナデ→回転ケズリ	ロクロナデ	4-6
3	C-1023	土師器	坏	SB2238-P2	堀り方埋土	口径：(13.0)	口縁部：ヨコナデ　体部：軽い手持ちケズリ	口縁部～体部中央：ヨコナデ	4-8
4	N-135	鉄製品	刀子？鉄族？	SB2238-P3	堀り方埋土	残存長：22.3			4-7

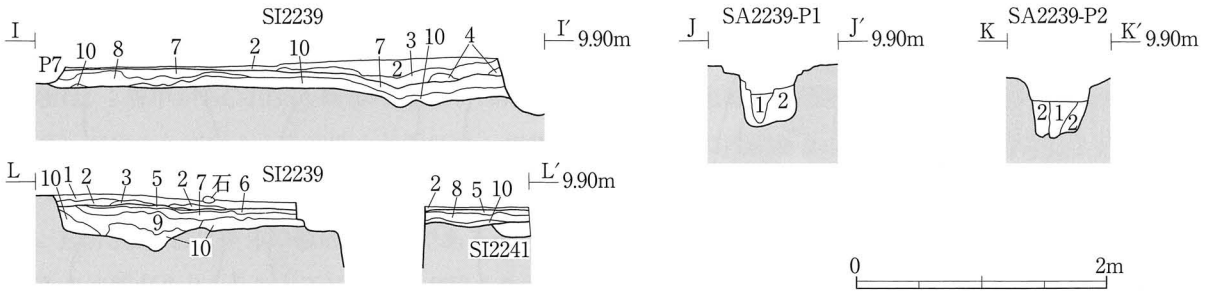
第15図　SB2238出土遺物

【SI2239竪穴住居跡】調査区の南東隅で住居跡のほぼ西半部を検出した。方向は、北西辺でN-39°-Eである。規模は北西辺3.87m、南西辺2.0m以上で、主柱穴は２基確認した。柱穴掘り方は隅丸円形を呈する。検出面から床面までの残存高は２～23cmである。堆積土は10層確認され、１層は自然堆積土、２・３層は人為的埋土と考えられる。４層は、炭化物や焼土を多量に含む層で、住居内の中央部を中心に認められ、住居機能時の堆積土と考えられる。５層は貼床で、住居内の一部に分布する。６～10層は掘り方埋土である。SI2241竪穴住居跡、SI2242竪穴住居跡よりも新しく、SA2237柱列、SB2238掘立柱建物跡、SK2246土坑よりも古い。

遺物は、１層中からC-1026土師器坏（第17図１）、C-1025土師器坏（第17図２）、C-1030土師器甕（第17図11a・11b）、G-134軒平瓦（第17図11）、P-61・62羽口（第17図９・10）が出土している。C-1024は、内面にナデ調整、外面体部に手持ちケズリを施し、内外面に赤彩の痕跡が見られる。C-1026は、外面体部と口縁部の境に段があり、内面にはミガキ調整と黒色処理が施されている。C-1030土師器甕は、胴張り形を呈していると考えられ、口縁部と体部の境に明瞭なくびれはなく、わずかに段があり、口縁部は外反するものである。口縁部には内外面ともにヨコナデ、体部外面にはハケメ、体部内面にはヘラナデが施されている。また、内面の口縁部と体部の境には、横方向のミガキ調整が加えられている。外面の体下部には、ハケメを磨り消すように縦方向のミガキ調整が施されている。G－134軒平瓦は、型挽き重弧文軒平瓦の破片で、顎部が剥がれ落ち、平瓦部が残存している。平瓦部の凸面には、斜格子叩きが施されているのが観察できる。凹線の底面は平坦である。P-62は羽口の先端部分で、先端から２cm程に鉱滓が付着している。残存する最大長は７cmで、内径を復元すると2.3cm程である。

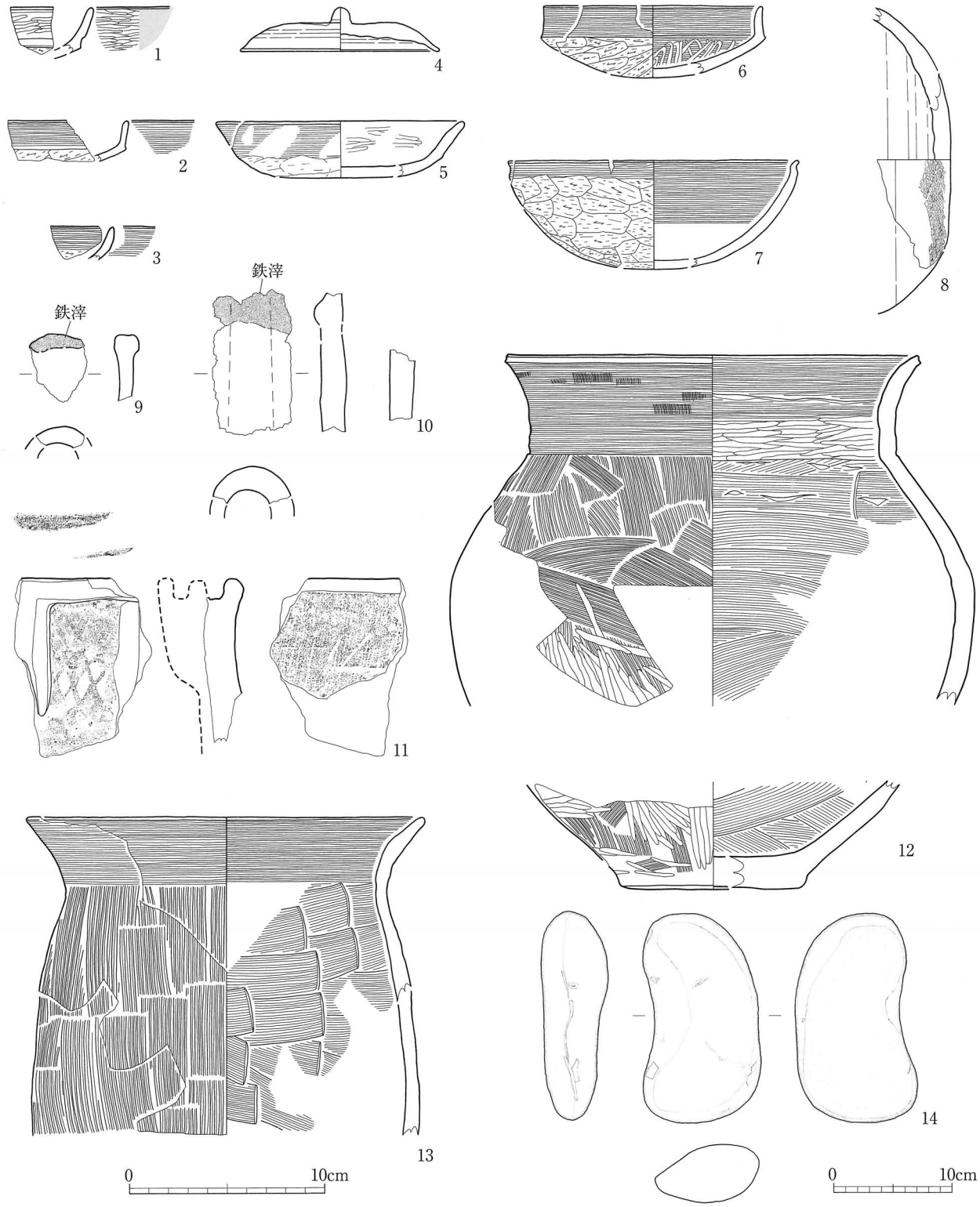
炭化物層である４層からは、部分的に磨り面があるK-327石製品（第17図14）や、口径10.2cmで乳頭状のつまみを持つE-541須恵器蓋（第17図４）が出土している。E-541天井部はほぼ平坦で、口縁部にカエリはなく、口縁端部はわずかに外反するものである。

床面からは、C-1029土師器坏（第17図５）、E-542須恵器（第17図７）が出土している。C-1029土師器の体部器形は、体下部から口縁部にかけて直線的に外傾する。外面の底部と体下部に手持ちケズリを施し、体部から口縁部にかけてヨコナデを施す。内面はミガキ調整が施されているが、磨滅が著しく、一部分しか観察できない。焼成は良好ではなく、色調は黄浅色を呈している。E-542須恵器は、破片のため器種や詳細な器形などは特定できないが、横瓶の側面部分の可能性がある。破片は、ロクロ目の中心が残存しており、製作時の底部と考えられ、概ね平坦である。底部と体部の境には、格子文がほどこされている。C-1028土師器坏（第15図６）、C-1029土師器坏（第15図７）、C-1031土師器甕（第15図13）などが出土している。C-1028は、体部と底部の境に段を持ち、口縁部が直立する関東系土師器で、内外面に黒色の漆が塗布されている。内面にはほぼ全体にヨコナデが施されており、その底部には螺旋状の暗文が施されている。C-1029は、体部が半球形を呈し、口縁部が短く屈曲する関東系土師器である。



遺構名	層位		色調	土質	備考
SI2239	1	堆積土	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト土粒を少量含む。
	2	堆積土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	炭化物、黒褐色粘土質シルト土粒を中量含む。
	3	堆積土	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト土ブロックを多量に含む。
	4	炭化物層	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量、焼土を微量含む。機能時堆積土。
	5	貼床	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土をラミナ状に含む。
	6	掘り方埋土	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	径3cmの黄褐色粘土質シルト土を多量に含む。
	7	掘り方埋土	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	径3cmの暗褐色土を多量に含む。
	8	掘り方埋土	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	径1～3cmの暗褐色土を多量に含む。
	9	掘り方埋土	10YR5/7黄褐色	粘土質シルト	径1～3cmの暗褐色土を少量含む。
	10	掘り方埋土	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルト土を粒状に微量含む。基本層Ⅴ層土と似るがしまりが弱い。
SA2239-P1	1	抜取穴	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を少量含む。
	2		10YR4/6褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルト土をやや多く含む。
SA2239-P2	1	抜取穴	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒をやや多く含む。
	2		10YR4/6褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルト土粒をやや多く含む。

第16図　SI2239断面図（S＝1/60）



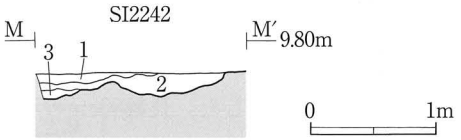
図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点		法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	C-1025	土師器	坏	SI2239	1層		口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ	口縁部～体部：ミガキ　黒色処理	
2	C-1026	土師器	坏	SI2239	1層		口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ	口縁部：ヨコナデ	
3	C-1027	土師器	坏	SI2239	4層		口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ　漆仕上げ	口縁部～体部：ヨコナデ　漆仕上げ	
4	E-541	須恵器	蓋	SI2239	4層上	口径：10.2　器高：2.3	天井部：回転ケズリ　体部：ロクロナデ	天井部～口縁部：ロクロナデ	4-9
5	C-1032	土師器	坏	SI2239	床面	口径：(12.6)　器高：(2.9)	口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ	体部：ミガキ	4-10
6	C-1028	土師器	坏	SI2239	堀り方埋土	口径：(11.2)　器高：(3.6)	口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ 漆仕上げ	口縁部：ヨコナデ　体部：ヨコナデ　漆仕上げ	4-12
7	C-1029	土師器	坏	SI2239	堀り方埋土	口径：(14.8)	口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ	口縁部～体部：ヨコナデ	4-11
8	E-542	須恵器	横瓶？	SI2239	床面		体部：ロクロナデ　格子文	ロクロナデ	4-13
9	P-61	土製品	羽口	SI2239	1層	最大長：3.5			4-14
10	P-62	土製品	羽口	SI2239	1層	最大長：7.0			4-15
11	G-134	瓦	軒平瓦	SI2239	1層	最大長：(8.3)　幅：(7.0)　厚さ：(1.6)	型挽き重弧文 凸面：格子叩き　顎部の接合面から剥離	凹面：布目痕　磨り消し	4-16
12	C-1030	土師器	甕	SI2239	1層	口縁部：20.9　底径：(9.2)	口縁部：ハケメ後ヨコナデ　体部：ハケメ→ミガキ	口縁部：ヨコナデ　頸部：ミガキ　体部：ヘラナデ	5-1
13	C-1031	土師器	甕	SI2239	堀り方埋土	口縁部：(20.2)	口縁部：ヨコナデ　体部：ハケメ	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラナデ	5-2
14	K-327	石製品	砥石	SI2239	4層	長さ：17.2　幅：9.7　厚さ：4.8			5-3

第17図　SI2239出土遺物

【SI2240竪穴住居跡】調査区の南東隅で住居跡の北西辺の一部を検出した。全体の規模は不明である。堆積土は3層に分層される。SI2239竪穴住居跡、Pit9よりも古い。遺物は、土師器甕の小破片が出土している。

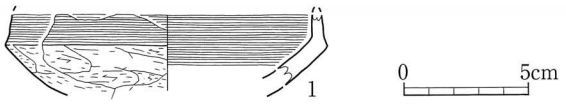
【SI2241竪穴住居跡】調査区の南東隅で住居跡の西辺を検出した。全体の規模は不明である。SI2239竪穴住居跡よりも古い。調査区東壁及び南壁で床面を１層確認した。遺物は、掘り方埋土中から土師器の小破片が出土している。

【SI2242竪穴住居跡】調査区の北西隅で住居跡の南東辺の一部を検出した。南東辺の検出長は5.27mである。主柱穴は検出されなかった。SK2249、SK2250土坑と重複し、それらよりも古い。遺物は、掘り方埋土中からC-1033土師器坏（第19図１）の他、須恵器甕の体部小破片が出土している。



遺構名	層位		色調	土質	備考
SI2242	1	掘り方埋土	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土粒を全体に多く含む。
	2	掘り方埋土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土粒を微量含む。
	3	掘り方埋土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土ブロックを全体に中量含む。

第18図　SI2242断面図（S=1/60）



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点		法量(cm)	外面調整	内面調整	写真図版
1	C-1033	土師器	坏	SI2242	掘り方埋土		口縁部：ヨコナデ 体部：ケズリ 漆仕上げ	口縁部～体部 ヨコナデ 漆仕上げ	5-4

第19図　SI2242出土遺物

【SD2243溝跡】調査区南西部で検出した。検出長は4.95mである。上幅24～47cm、下幅19～41cm、深さ４～６cmで、断面形は浅い皿型を呈する。底面には多数の小さい窪みがあり、鋤鍬の痕跡と推定される。堆積土は１層である。遺物は出土していない。

【SK2244土坑】調査区北東部隅で一部を検出した。全体の形状は不明である。深さは、調査区北壁断面で72cmである。壁面は直立に立ち上がる。堆積土は２層である。SK2245土坑、Pit1より新しい。遺物は出土していない。

【SK2245土坑】調査区北東部隅で一部を検出した。全体の形状は不明である。深さは調査区北壁断面で18cmである。壁面は、直線的に傾斜する。堆積土は１層である。遺物は出土していない。

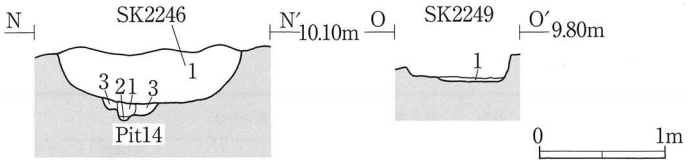
【SK2246土坑】調査区南部中央で検出した。平面形は楕円形で、長軸191cm、短軸150cm、検出面からの深さは42cmである。壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面は擂鉢状である。底面に直径５～10cmの穴が複数認められ、植物の根の痕跡と考えられる。堆積土は１層である。SA2236-P4、Pit14と重複し、それらよりも新しい。

遺物は、１層中からC-1035土師器坏の破片（第21図１）、E-572須恵器不明品（第21図２）、E-545須恵器甕の破片（第21図３）が出土している。C-1035土師器坏は、体部と口縁部の境に段があり、口縁部はやや外湾しながら直立するものである。調整は、口縁部の内外面ともにナデ調整、体部は内面にミガキ調整、外面に手持ちケズリが施されている。E-572須恵器は全体の器形は不明であるが、脚部片である可能性が考えられる。E-545須恵器甕は、頚部半ばに１条の沈線があり、その上下に波状文が施されている。口縁端部の器形は、わずかに外側に張り出すものである。

【SK2247土坑】調査区南部中央で一部を検出した。南北に長軸を持つ楕円形の土坑と考えられる。深さは南壁で27cmである。壁面は垂直気味に立ち上がる。堆積土は１層である。SA2236-P5柱切り取り穴と重複し、それよりも新しい。遺物は出土していない。

【SK2248土坑】調査区南西部で検出した。長軸37cm、短軸26cmの楕円形を呈する。堆積土は１層である。遺物は、１層中から土師器甕の体部の破片が出土している。

【SK2249土坑】調査区北西部で検出した。長軸78cm、短軸62cmの隅丸方形で、深さは20cmである。堆積土は１層である。SI2242竪穴住居跡よ



遺構名	層位		色調	土質	備考
SK2246	1		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	V層土粒～ブロックを少量含む。
SK2249	1		10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土ブロック、酸化鉄を少量含む。
Pit14	1	柱痕跡	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	
	2	柱圧痕	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	
	3	掘り方	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。

第20図　SK2246・SK2249断面図（S=1/60）

りも新しい。

遺物は、１層中からC-1034土師器坏（第21図４）が出土している。器形は、底部から口縁部にかけて弧を描くような半球形を呈する。外面の口縁部にヨコナデ、体部に手持ちケズリを施し、内面にはミガキ調整と黒色処理が施されている。

【SK2250土坑】 調査区北西部で検出した。長軸54cm、短軸53cmの隅丸方形で、深さは11cmである。堆積土は１層である。SI2242竪穴住居跡よりも新しい。遺物は出土していない。

【SK2251土坑】 調査区北西部で検出した。長軸80cmの不整形の土坑で、深さは４cmである。底面には凹凸がある。堆積土は１層である。

遺物は、検出面でC-1041土師器坏（第21図５）が出土した。C-1041の器形は半球形で、口縁部と体部の境に稜があり、口縁部が短く直立する。胎土の色調は橙色を呈する。器形の特徴から、関東系土師器とされるものである。その他、１層から土師器の小破片、須恵器の小破片、鉱滓が出土している。

【SK2252土坑】 調査区北西部で検出した。長軸27cm、短軸24cmの不整形の土坑である。遺物は、堆積土１層中から非ロクロ土師器の小破片が少量出土している。

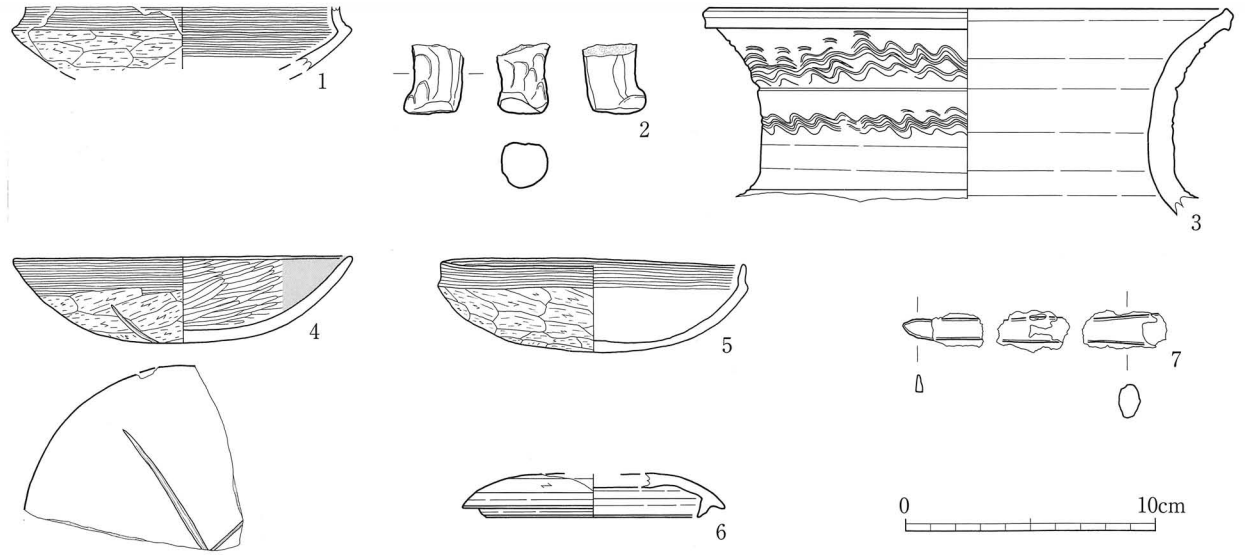
【SK2253土坑】 調査区南西部で検出した。長軸56cm、短44cmの隅丸方形状の楕円形を呈する。堆積土は１層である。SD2243溝跡よりも新しい。遺物は、１層中から土師器の小破片が少量出土している。

【SK2254土坑】 調査区南西部で検出した。長軸72cm、短軸54cmの楕円形を呈する。堆積土は１層である。

遺物は、１層中から土師器甕の口縁部と体部の破片が少量出土している。

【SK2255土坑】 調査区南西部隅で一部を検出した。全体の形状は不明である。深さは、南壁断面で50cm程である。壁は直線的に傾斜するが、北壁中に段がある。堆積土は３層確認した。

遺物は、１層中から土師器甕の体部の小破片が出土し、３層中から土師器甕の底部の破片の他、遺構底面から復元径10cm、内面にかえりがあるE-544須恵器蓋（第21図６）と、残存長9.9cmのN-136刀子（第21図７）が出土している。

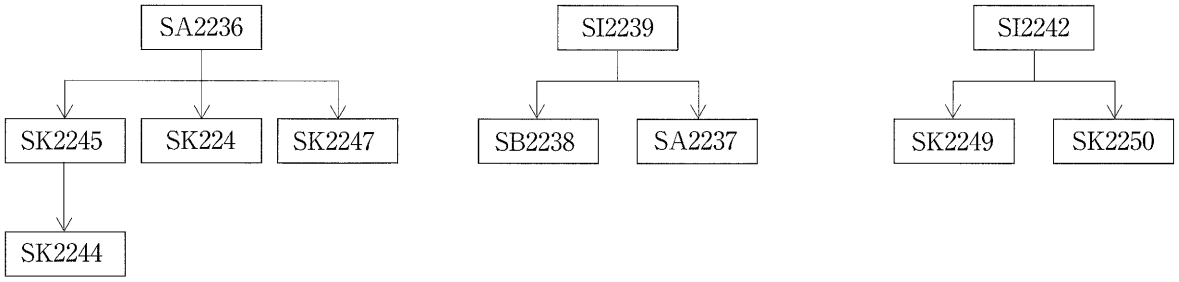


図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点		法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	C-1035	土師器	坏	SK2246	1層		口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ　漆仕上げ	口縁部～体部：ヨコナデ　漆仕上げ	5-5
2	E-572	須恵器	脚部片	SK2246	1層		脚部：指ナデ　指圧痕		5-6
3	E-545	須恵器	甕	SK2246	1層	口径：(20.8)	口縁部～頸部：ロクロナデ　頸部：波状文2条　沈線1条	口縁部～頸部：ロクロナデ	5-10
4	C-1043	土師器	坏	SK2249	1層	口径：(13.5)　器高：(3.4)	口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ　底部：ヘラ刻み「×」	口縁部：ミガキ	5-7
5	C-1041	土師器	坏	SK2251	3層	口径：12.3　器高：3.8	口縁部：ヨコナデ　体部：手持ちケズリ	口縁部：ヨコナデ	5-8
6	E-544	須恵器	蓋	SK2255	底面	口径：(10.6)	口縁部～天井部：ロクロナデ　天井部：回転ケズリ	天井部～口縁部：ロクロナデ	5-9
7	N-136	鉄製品	刀子	SK2255	底面	残存長：9.9			5-11

第21図　SK2246・SK2249・SK2251・SK2252出土遺物

4．まとめ

第205次調査で発見された主な遺構の重複関係は、次の通りである。なお、並列関係は必ずしも同時期を示すものではない。ここでは、SA2236一本柱列とSI2239竪穴住居跡出土遺物についてまとめ、SI2239竪穴住居跡とⅡ期官衙に関連すると考えられるSB2238掘立柱建物跡の年代、遺物については、第1章Ⅱ－2で触れたように、別稿として改めて検討する予定でいる。



(1) SA2236一本柱列について

SA2236一本柱列は、遺跡南西部で検出されているⅠ期官衙の西辺と考えられる材木列（第99次調査：SA1430材木列）や溝跡（第103次調査：SD1509溝跡）の延長付近に位置していることから、Ⅰ期官衙に関連する遺構と考えられる。SA2236一本柱列もその延長となる可能性が考えられるが、周辺の調査を継続し、遺構の状況を詳しく検討し、検証を行なっていきたいと思う。

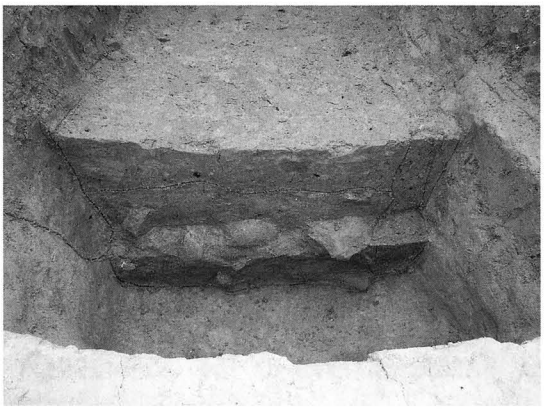
(2) SI2239竪穴住居跡出土G－134軒平瓦について（第17図－11、写真図版4－16）

SI2239竪穴住居跡1層中から出土したG－134軒平瓦は、顎部が剥がれ、平瓦部の格子叩き目が露出しているものである。格子叩きの平瓦は、郡山廃寺跡とその周辺では出土しておらず、官衙内の遺構から出土しているが、数量は極めて少ない（註４）。斜格子叩きの平瓦が、Ⅱ期官衙に関連するSB2238掘立柱建物より古いSI2239竪穴住居跡の堆積土中から出土しているということは、Ⅰ期官衙の時期に軒平瓦が遺跡内に持ち込まれる要因があった可能性がより高まったことを示している。

1．西半部全景（南から）

2．東半部全景（南から）

3．SB2238（南から）



4．SB2238　P1断面（西から）

5．SB2238　P2断面（西から）

6．SB2238　P3断面（西から）

7．SI2239床面状況（南から）

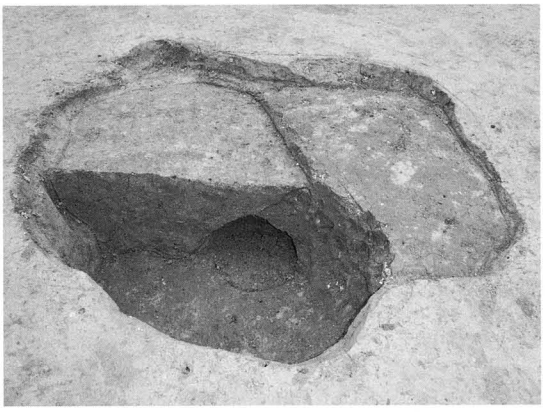
8．SI2239遺物（E-541）出土状況

写真図版２　調査区全景・SB2238・SI2239

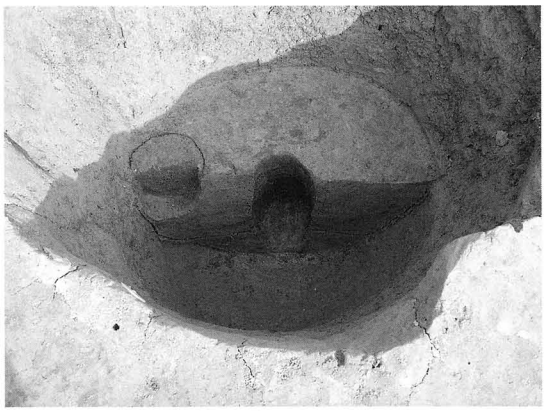
1．SI2239　P1断面（南から）

2．SI2239　P2断面（南から）

3．SA2236・SA2237検出状況（南西から）

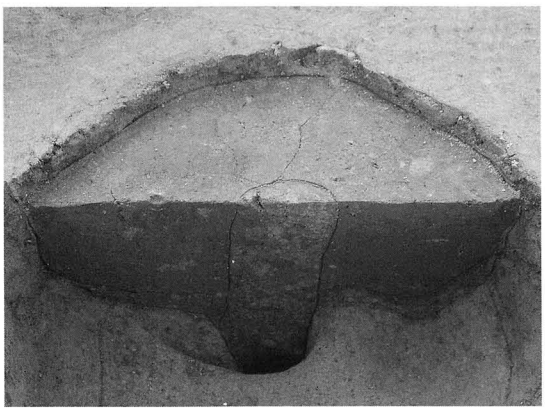


4．SA2236　P2抜取穴断面（北西から）



5．SA2236　P2断面（北西から）

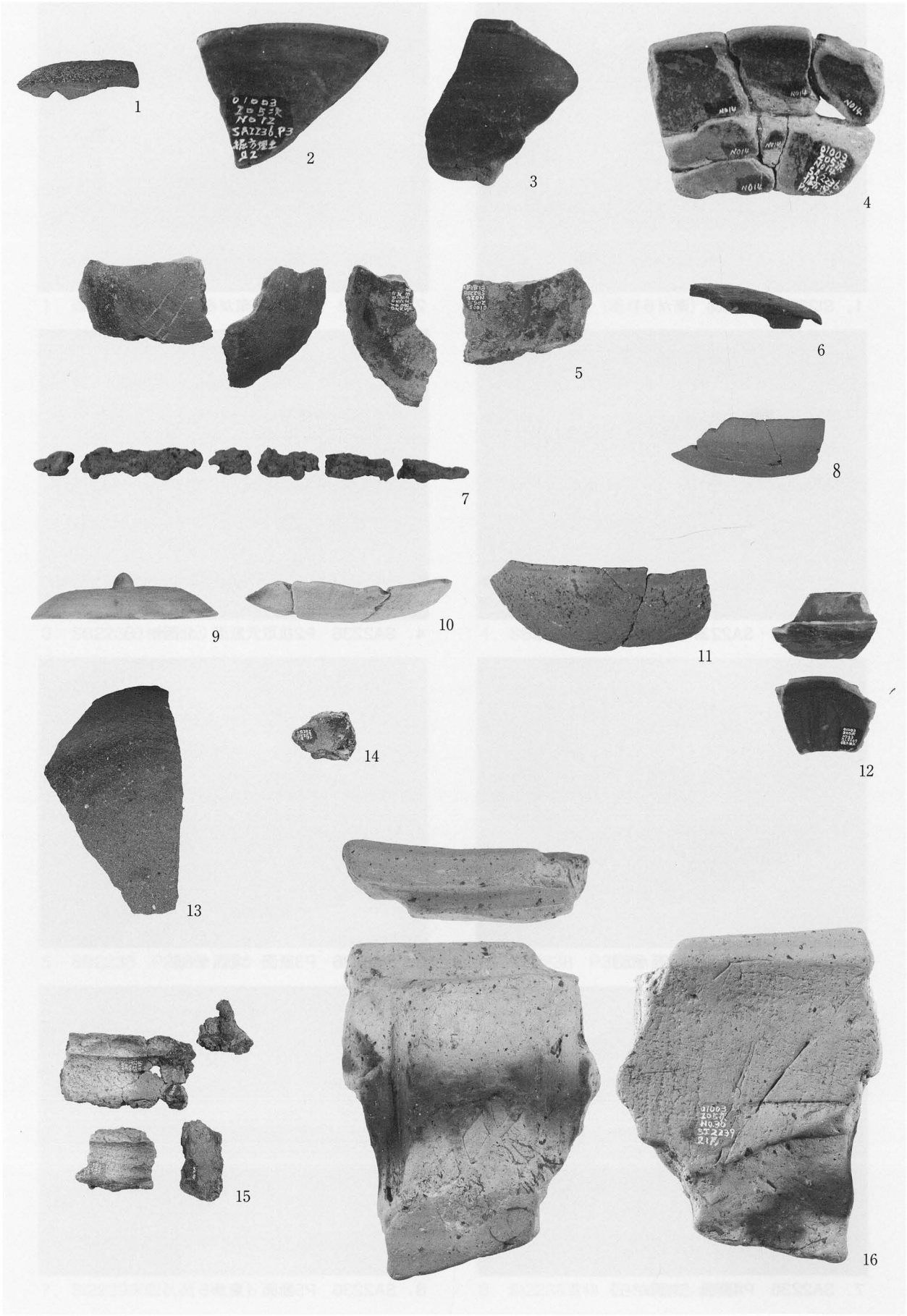
6．SA2236　P3断面（北西から）



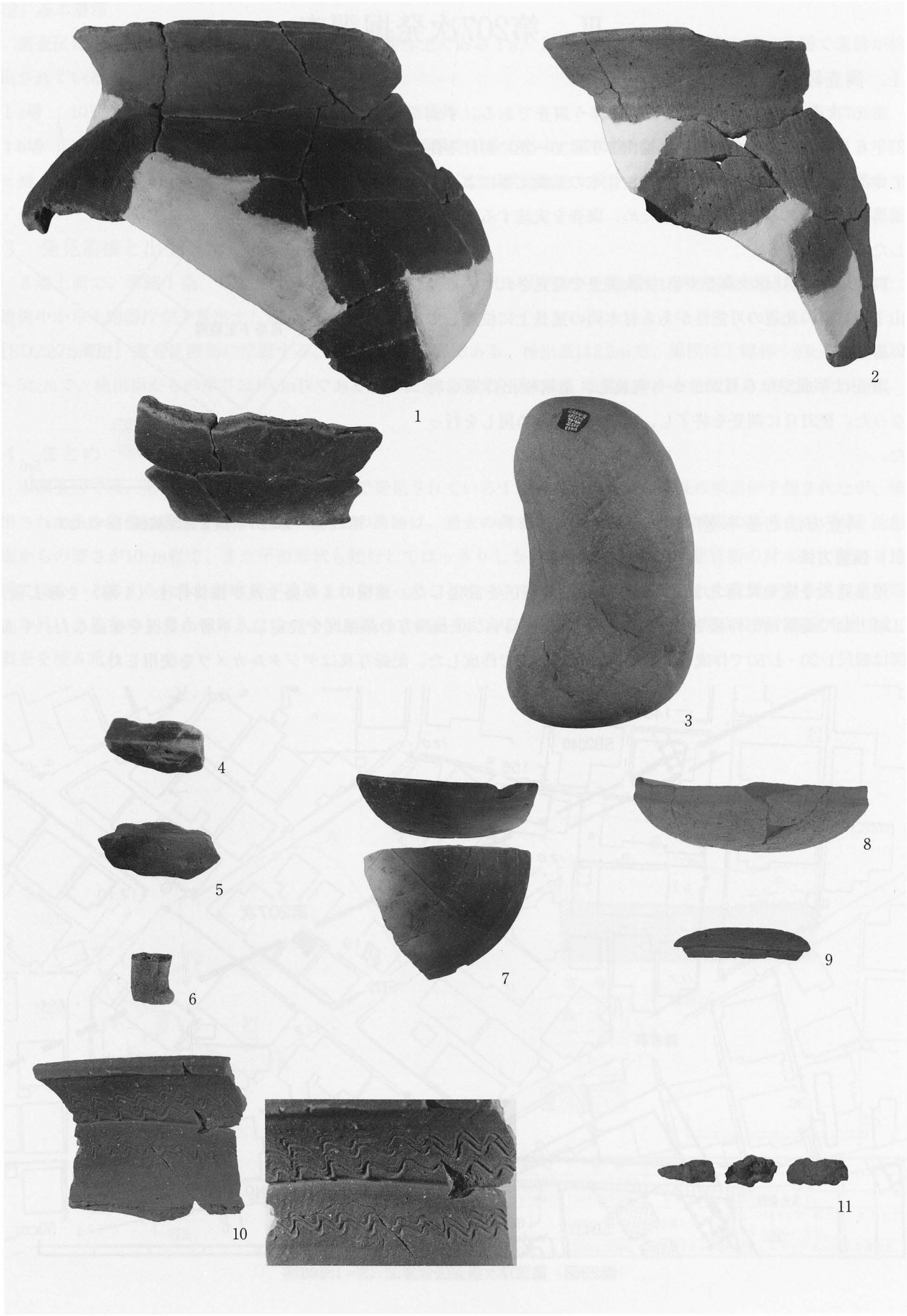
7．SA2236　P4断面（南西から）

8．SA2236　P5断面（東から）

写真図版３　SI2239・SA2236・SA2237



写真図版４　第205次調査区出土遺物



写真図版５　第205次調査区出土遺物

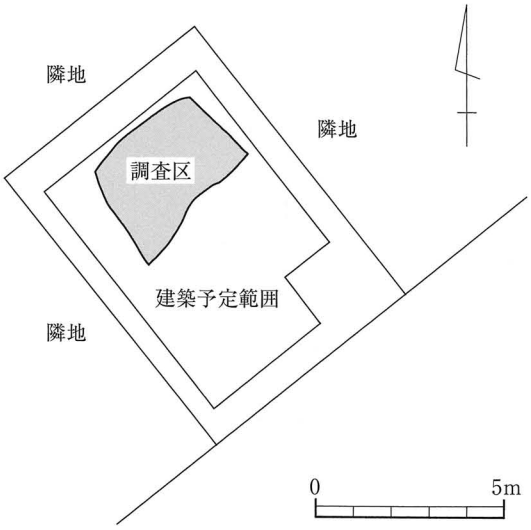
Ⅲ．第207次発掘調査

１．調査経過

第207次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年６月６日付で仙台市太白区郡山３丁目35－28における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査地点は第148次調査や第156次調査で発見されている郡山Ⅰ期官衙の北辺の可能性がある材木列の延長上に位置している。

調査は平成23年６月20日から実施し、遺構検出作業を行なった。翌21日に調査を終了し、重機により埋め戻しを行った。

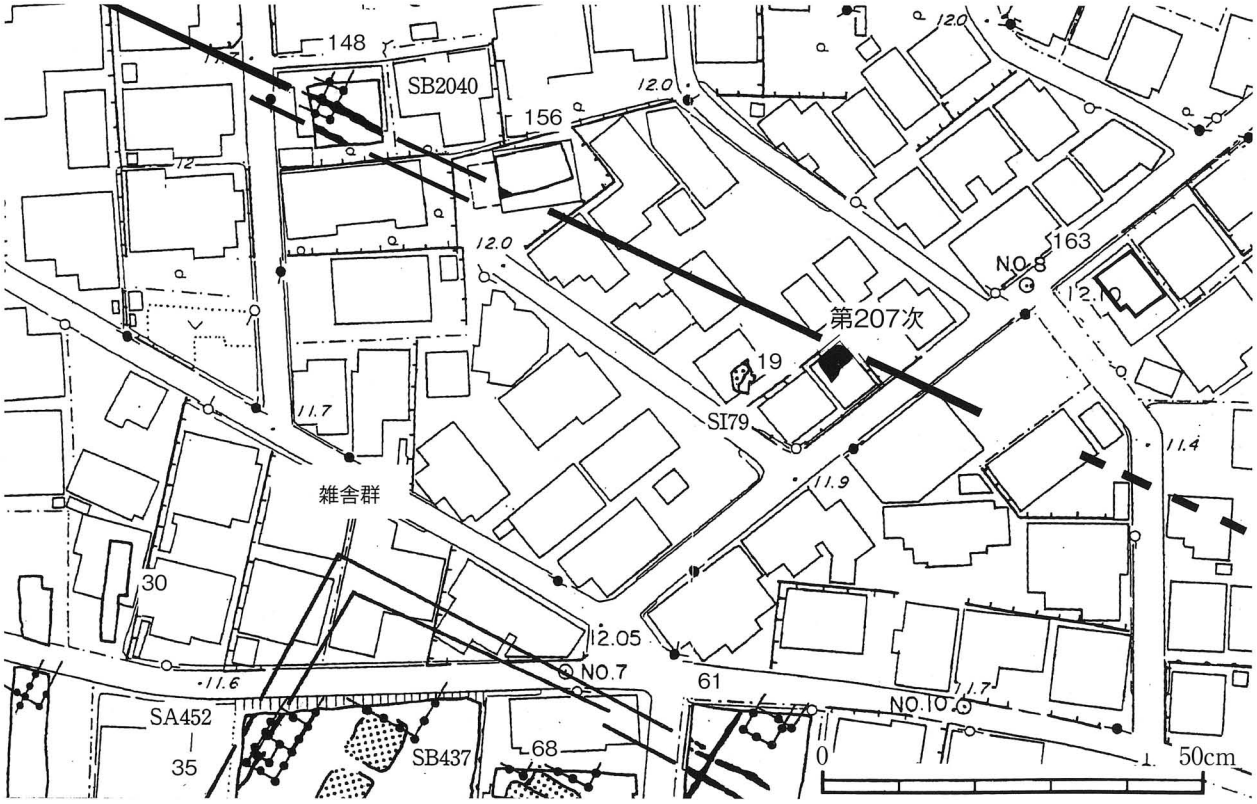


第22図　第207次調査区配置図（S=1/200）

２．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

建築建設予定地に南北２ｍ×東西3.2mの調査区を設定した。重機により盛土及び畑耕作土（Ⅰ層）を除去後、Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。また、調査区内に40cm四方の深掘区を設定し、下層の状況を確認した。平面図は縮尺1/20・1/50で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。



第23図　第207次調査区位置図（S＝1/100）

(2) 基本層序

調査区は、盛土が約25～50cmあり、その下に耕作土であるⅠa、Ⅰb層があり、さらにその下のⅡ層で遺構が検出されている。

Ⅰa層　10YR4/2灰黄褐色シルト。層厚0～20cm。畑耕作土。

Ⅰb層　10YR3/2黒褐色シルト。層厚35～50cm。土師器片が多く出土。畑耕作土。

Ⅱ層　10YR4/6褐色粘土質シルト。層厚45cm以上。10YR3/2黒褐色粘土質シルト土ブロックをまだらに含む。

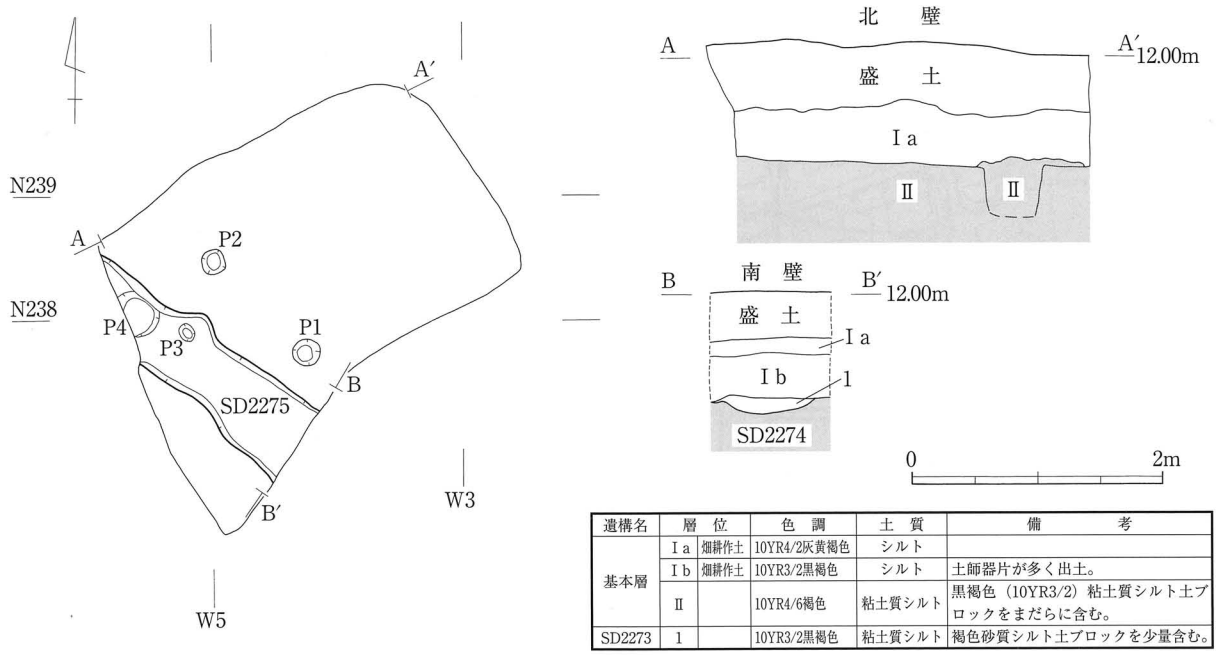
3．発見遺構と出土遺物

Ⅱ層上面で、溝跡１条、ピット４基を検出した。遺物は、Ⅰb層中より土師器片、須恵器片が出土した。また、遺構中から土師器片が少量出土した。

【SD2275溝跡】調査区西部に位置する。方向はN-31°-Wである。検出長は2.2mで、規模は上幅49～63cm、下幅39～54cmで、検出面からの深さは10cm程である。断面形は皿状を呈する。堆積土中から土師器片が少量出土した。

4．まとめ

本調査区では、第148次調査や第156次調査で発見されているⅠ期官衙の材木列の延長の検出が予想されたが、検出された主な遺構は溝跡１条のみである。この溝跡は、過去の調査で検出されている材木列の方向と近いが、検出面からの深さが10cm程で、また平面形状も蛇行してはっきりしないことから、郡山Ⅰ期官衙の材木列に関わる遺構ではないと考えられる。材木列が検出されなかったことについては、材木列の想定された位置が調査区の北西端より外にあるものと考えておきたい。今後も周辺での調査がある際には周辺での調査や想定位置の確認を踏まえ、調査を積み重ねていく。



遺構名	層　位		色　調	土　質	備　　考
基本層	Ⅰa	畑耕作土	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
	Ⅰb	畑耕作土	10YR3/2黒褐色	シルト	土師器片が多く出土。
	Ⅱ		10YR4/6褐色	粘土質シルト	黒褐色（10YR3/2）粘土質シルト土ブロックをまだらに含む。
SD2273	1		10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルト土ブロックを少量含む。

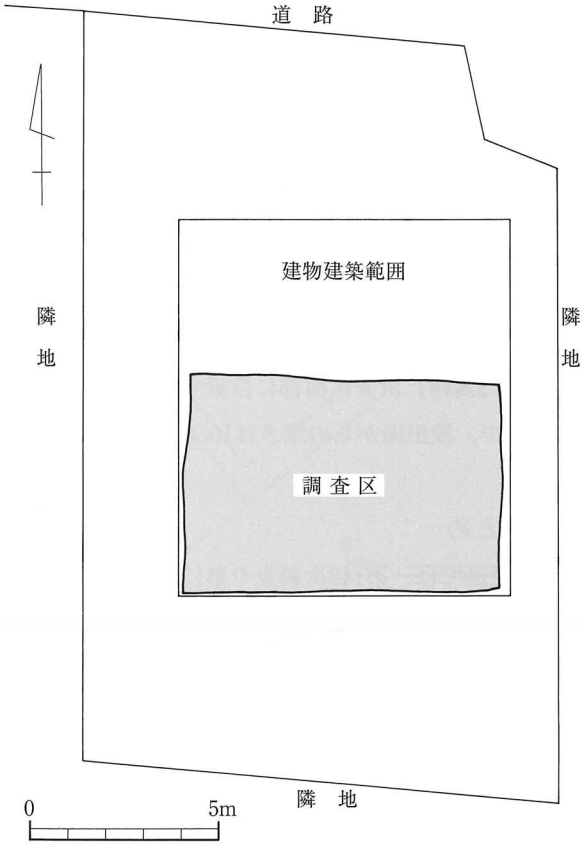
第24図　第207次調査区平・断面図（S=1/60）

Ⅳ．第208次発掘調査

1．調査経過

第208次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年５月24日付で仙台市太白区郡山５丁目148－35における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅建築における杭打ち工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。調査地点は、郡山遺跡の北西部･郡山廃寺南部に位置する。

調査は平成23年７月13日から実施した。調査区の中で、郡山廃寺南辺に関連する材木列を検出したため、その保存協議を行なった。７月28日に、現地において施工主代理人ならびに施工業者と遺構保存について協議したところ、遺構への杭打ちを回避する設計変更の承諾が得られた。そのため、材木列の位置を明示した上で埋め戻しを行った。工事は９月20、21日に行われ、材木列を避けて行なわれたことを確認し、調査を終了した。

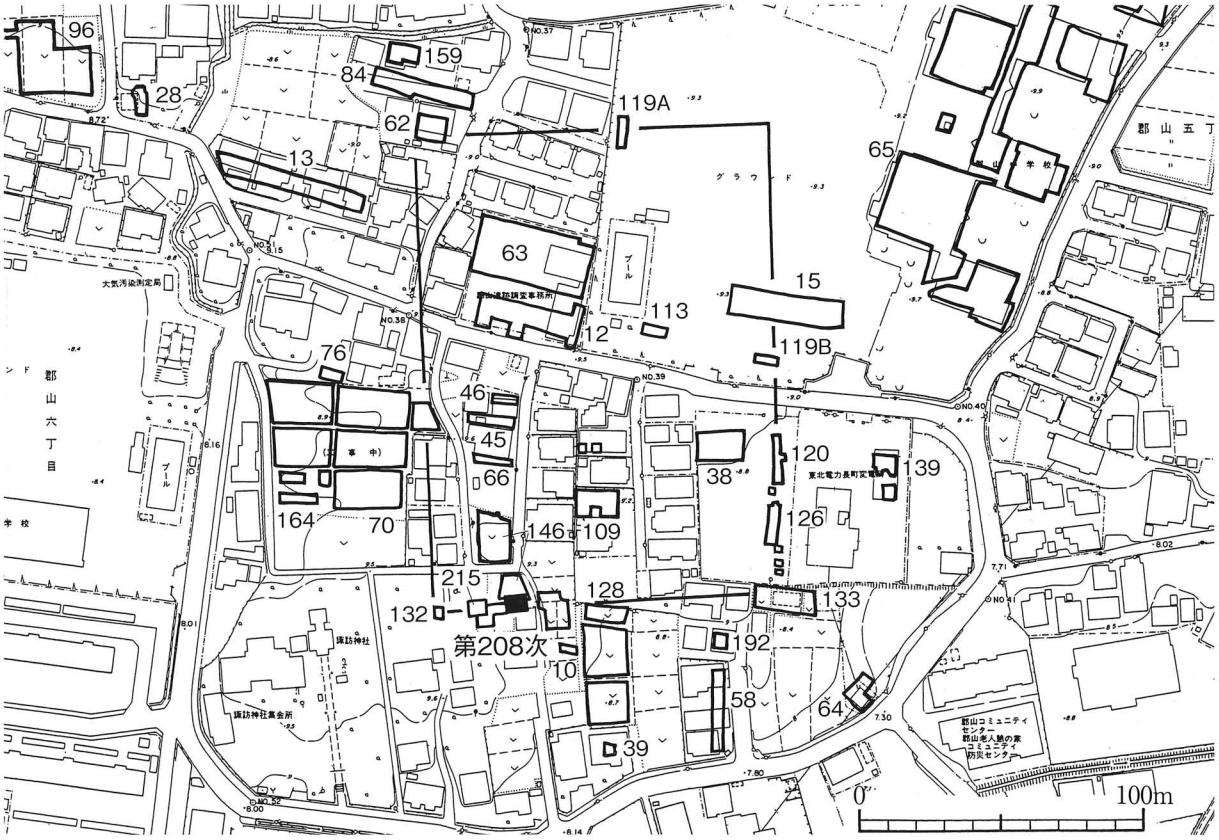


第25図　第208次調査区配置図（S＝1/200）

2．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

住宅建築範囲の北半部は、第146次調査で遺跡の範囲確



第26図　第208次調査区位置図

認調査を行っており、今回の調査は未調査部分の南半部を対象とした。建築範囲内にそれぞれ南北5.5m×東西8mの調査区を設定し、重機により盛土およびⅠ、Ⅱ層を除去後、Ⅲ層上面で遺構検出作業を行った。それ以外の遺構について調査を行い、記録保存を行った。平・断面図は縮尺1/20で作製した。記録写真はデジタルカメラで撮影した。

(2) 基本層序

調査区は、盛土が約30cmあり、その下に旧耕作土であるⅠ層がある。さらにその下に遺構上面を削平し、旧耕作土と混じりあったⅡa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd層があり、その下のⅢ層で遺構が検出されている。

Ⅰ層　10YR3/4暗褐色粘土質シルト。層厚10～35cm。炭化物をごく少量含む。旧畑耕作土。

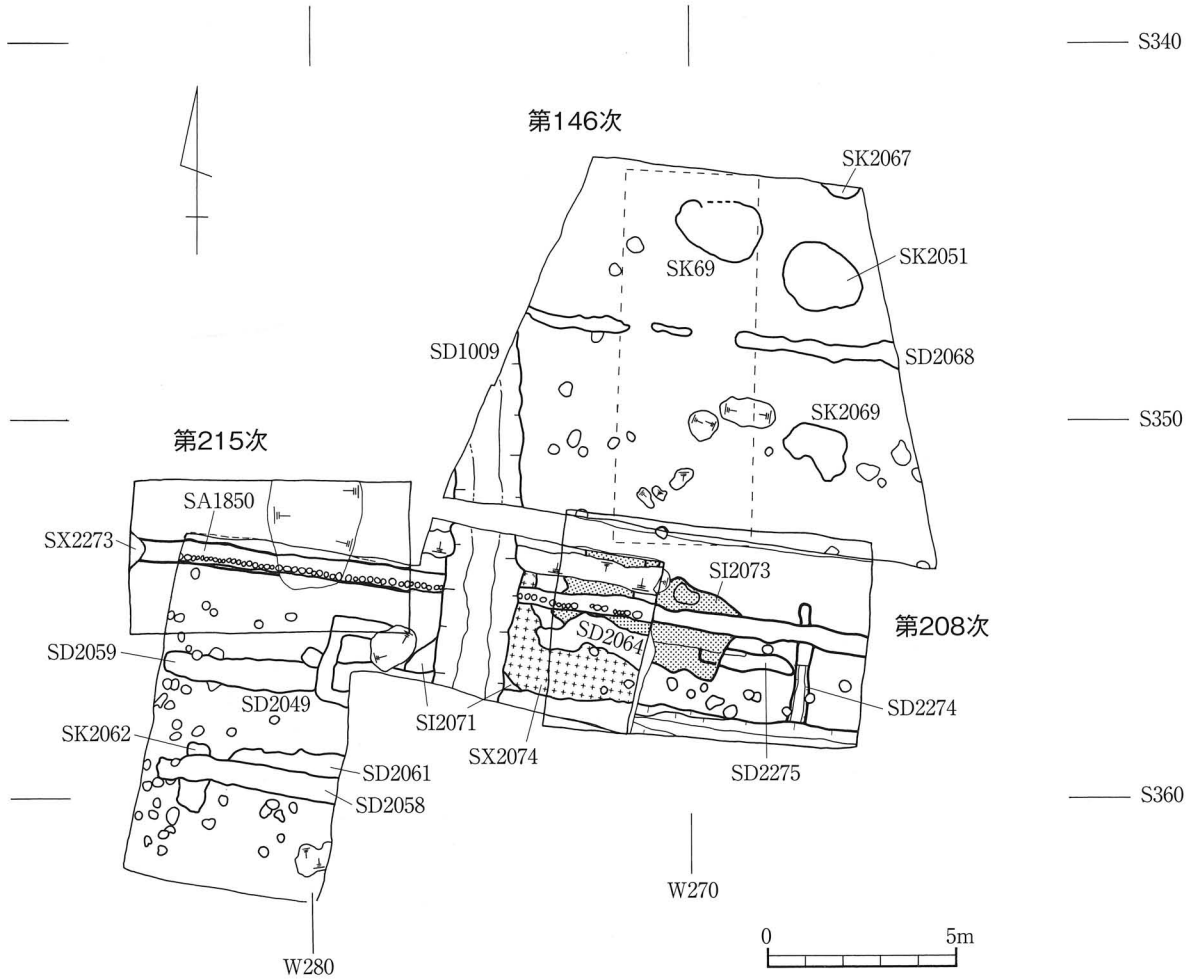
Ⅱa層　10YR4/4褐色粘土質シルト。層厚5～15cm。暗褐色粘土質シルト土をブロック状に含む。

Ⅱb層　10YR4/4褐色粘土質シルト。層厚0～15cm。黄褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状にやや多く含む。

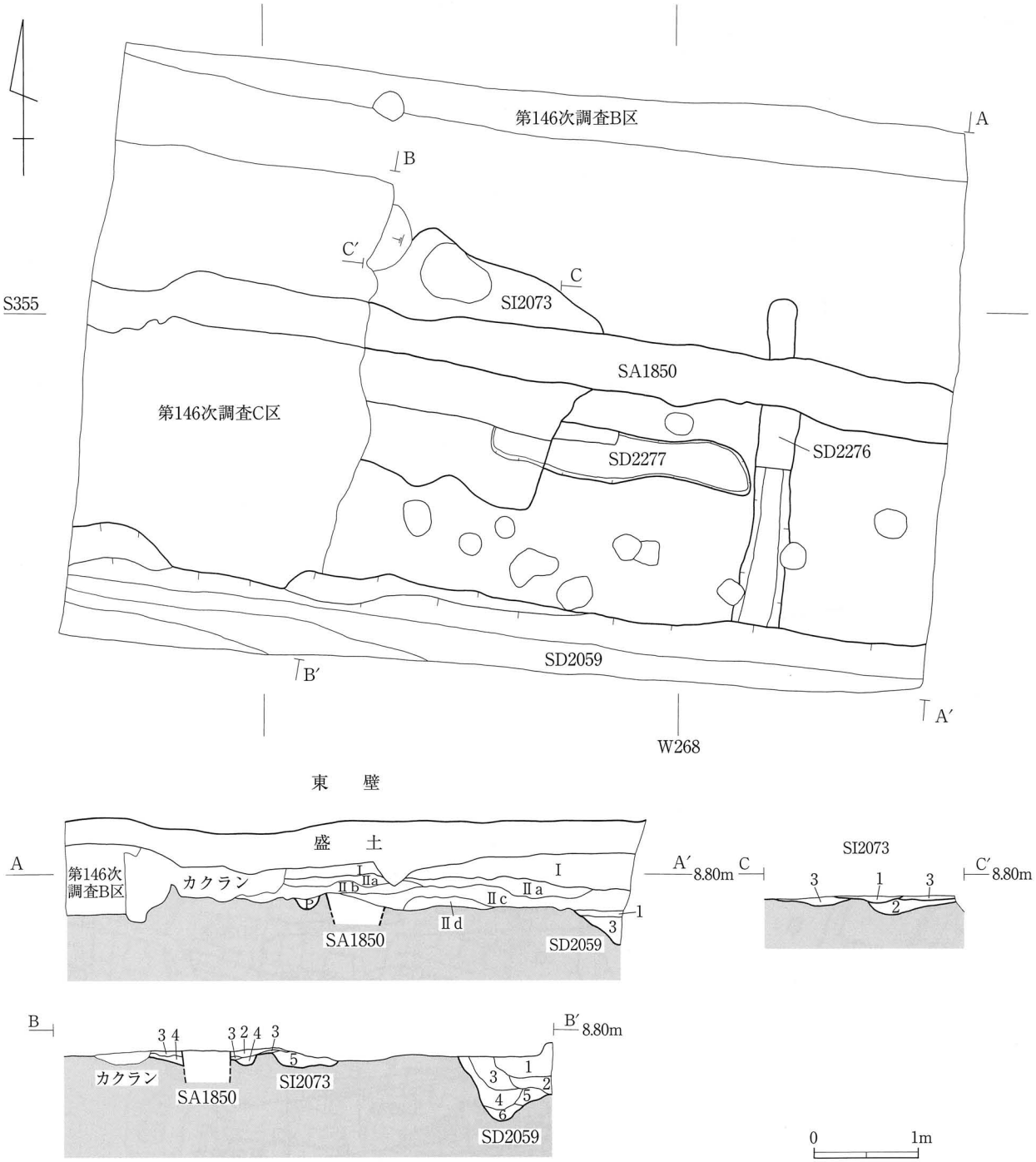
Ⅱc層　10YR3/3暗褐色粘土質シルト。層厚0～20cm。黄褐色粘土質シルト土を粒状に微量含む。

Ⅱd層　10YR3/4暗褐色粘土質シルト。層厚0～15cm。黒褐色粘土質シルト土をブロック状に少量、黄褐色粘土質シルト土を粒状に少量含む。

Ⅲ層　10YR5/6黄褐色粘土質シルト。にぶい黄褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状にやや多く含む。



第27図　第146次・第208次・第215次遺構配置図（S＝1/200）



	層位		色調	土質	備考
基本層	Ⅰ	耕作土	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物を極少量含む。
	Ⅱa		10YR4/4褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルト土をブロック状に含む。
	Ⅱb		10YR4/4褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状にやや多量に含む。
	Ⅱc		10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を粒状に微量含む。
	Ⅱd		10YR5/8黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土をブロック状に少量、黄褐色粘土質シルト土を粒状に少量含む。
	Ⅲ		10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状にやや多量に含む。

遺構名	層位		色調	土質	備考
SA1850	1		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を粒状にやや多量に含む。
SI2073	1		10YR4/6褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を粒状に含む。焼土粒を少量含む。
	2		10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	3		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	
	4		10YR4/4褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状に多量に含む。
	5		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を微量含む。
SD2059	1		10RY3/3暗褐色	粘土質シルト	
	2		10RY3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状に含む。
	3		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黒褐色辺土シルト土をブロック状に少量含む。
	4		10RY3/3暗褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルト土を多量に含む。
	5		10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土をブロック状に多量に含む。
	6		10YR5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土をブロック状に多量に含む。

第28図　第208次調査区平・断面図（S＝1/60）

３．発見遺構と出土遺物

材木列１列、竪穴住居跡１軒、溝跡３条、ピット11基を検出した。遺物は、土師器、須恵器、瓦片などが出土した。

【SA1850材木列】調査区中央で検出した。第146次調査Ｃ・Ｄ区で検出されている材木列の延長である。検出長は8.35mで、そのうち5.7mを今回の調査で検出した。SI2073竪穴住居跡、SD2274溝跡と重複し、いずれよりも新しい。この材木列は、郡山廃寺の南辺となる材木列であることが判明している。協議の結果、保存が図られることとなったため、遺構の検出に留め、掘り込み等は行わなかった。遺物は、堆積土最上層から土師器甕の体部の小破片が出土している。

【SI2073竪穴住居跡】調査区中央で検出した竪穴住居跡で、第146次調査で一部を検出している。規模は、南北2.2m、東西2.0m以上である。堆積土は５層に分層される。１、２層は、褐色～にぶい黄褐色の粘土質シルトで、自然堆積土と考えられる。３層は、しまりのある暗褐色の粘土質シルトで、貼床とみられる。４、５層は褐色～暗褐色の粘土質シルトで、掘り方埋土と見られる。SA1850材木列、SD2275溝跡と重複しており、SD2275溝跡より新しく、SA1850材木列よりも古い。遺物は出土していない。

【SD2059溝跡】調査区南端で検出した東西方向の溝跡で、北側上端のみを検出した。第146次調査で一部が検出されており、その延長にあたる。検出長は8.25mで、そのうち5.9mを今回の調査で検出した。規模は、上幅92cm以上、下幅15～35cm、検出面からの深さは32～60cmである。断面形はＶ字状で、北側面は底面から直線的に外傾し、南壁は北壁よりも緩やかに外傾している。SD2274溝跡と重複し、それより新しい。

遺物は、１層から土師器片、須恵器片、丸瓦片、平瓦片が出土している。平瓦G-135（第29図３）は、凸面を縄叩き、凹面に布目痕が残る。平瓦G-136（第29図４）は、凸面は叩き目を丁寧に磨り消し、凹面には布目痕が残る。平瓦G-137（第29図５）は、凸面に縦方向のヘラケズリ調整、凹面には布目痕が残り、側面に糸切り痕が見られる。丸瓦F-107（第29図６）は、凸面縄叩きの後に縦方向のヘラケズリが施され、凹面には布目痕が見られる。側面はヘラケズリ調整である。２層からは土師器甕の小破片が出土している。

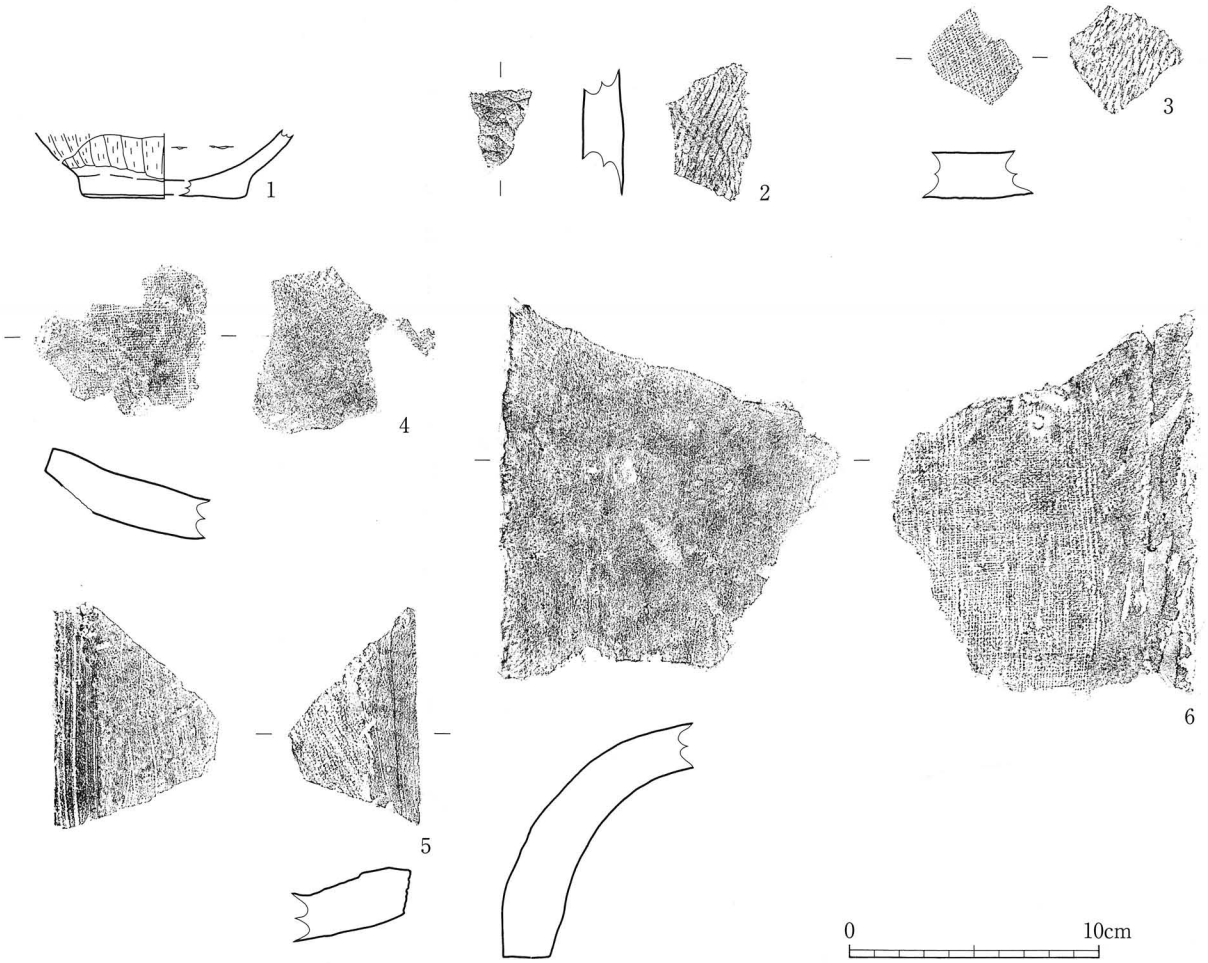
【SD2276溝跡】調査区東側で検出した南北方向の溝跡である。検出長は3.1mである。規模は上幅35～45cm、下幅20～30cm、検出面からの深さは11cmである。断面形は浅い皿状を呈し、堆積土は１層である。SA1850材木列、P7、P8と重複しており、いずれよりも古い。遺物は出土していない。

【SD2277溝跡】調査区中央で検出した東西方向の溝跡である。検出長は2.5mである。規模は上幅35～50cm、下幅30～40cm、検出面からの深さは６cmである。断面形は浅い皿状を呈し、堆積土は１層である。SI2073竪穴住居跡と重複し、それよりも古い。

遺物は出土していない。

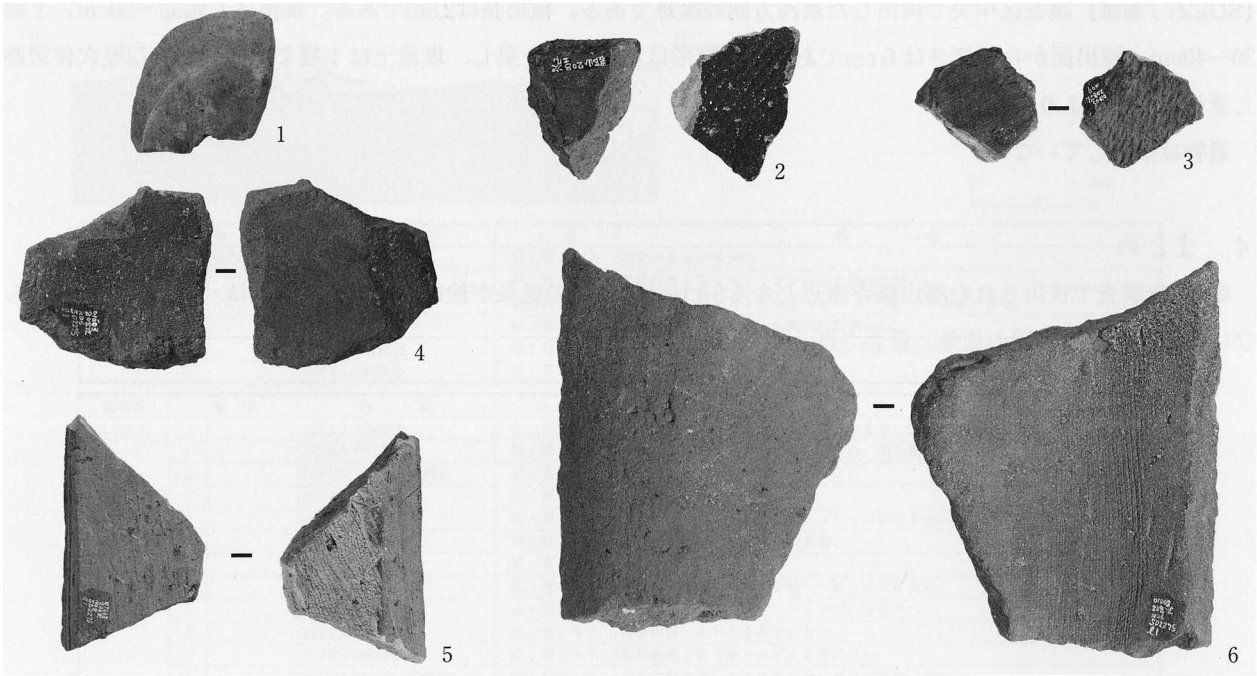
４．まとめ

第146次調査で検出された郡山廃寺南辺となるSA1850材木列の延長が検出された。材木列は、施工主代理人ならびに施工業者との協議の結果、保存されることとなった。



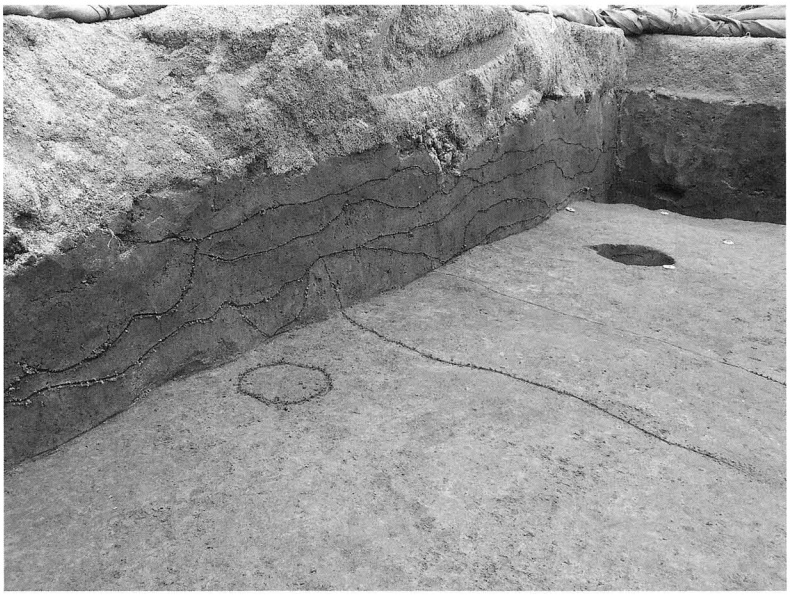
No.	登録番号	種別	器形	出土地点		法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	C-1113	土師器	甕	Ⅰ層		底径：6.6	体部：手持ちヘラケズリ	磨滅により不明	4－1
2	E-568	須恵器	甕	Ⅰ層		縦：4.3　横：5.1　厚さ：1.6	凸面：平行叩き	凹面：叩目	4－2
3	G-135	瓦	平瓦	SD2075	1	縦：4.3　横：4.5　厚さ：1.9	凸面：縄叩き	凹面：布目痕	4－3
4	G-136	瓦	平瓦	SD2075	1	縦：4.5　横：5.0　厚さ：1.8	凸面：磨消	凹面：布目痕	4－4
5	G-137	瓦	平瓦	SD2075	1	縦：8.6　横：5.2　厚さ：1.9	凸面：ケズリ　側面：糸切り	凹面：布目痕	4－5
6	F-107	瓦	丸瓦	SD2075	1	縦：15.2　横：12.1　厚さ：1.7～2.4	凸面：縄叩き→ヘラナデ　側面：ケズリ	凹面：布目痕	4－6

第29図　第208次調査区出土遺物



写真図版６　第208次調査区出土遺物

1．調査区全景（西から）



2．東壁断面（北西から）

3．SD2059溝跡（西から）

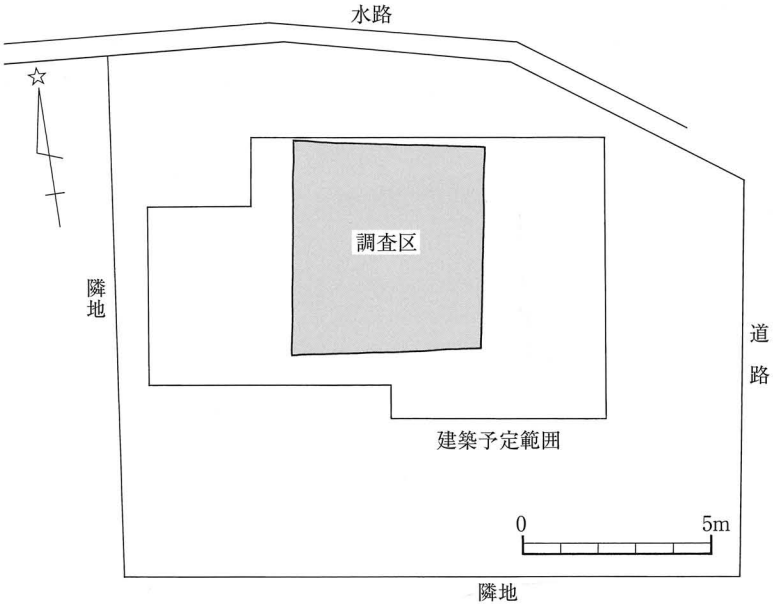
写真図版７　第208次調査区

Ⅴ．郡山遺跡第210次発掘調査

１．調査経過

第210次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年８月24日付で仙台市太白区郡山２丁目119－４における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査は平成23年９月22日から実施し、遺構検出作業を行なった。９月25日に調査を終了し、翌26日に重機により埋め戻しを行った。

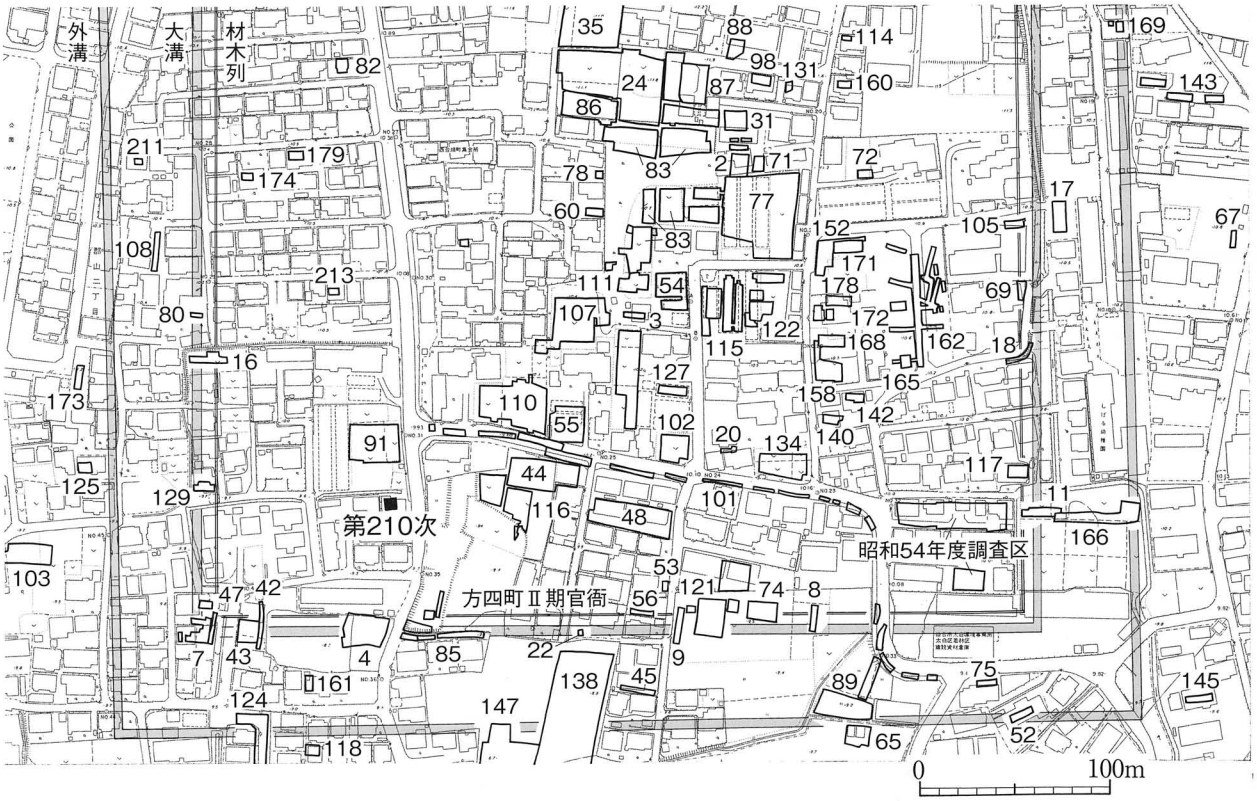


第30図　第210次調査区配置図（S＝1/200）

２．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

建築予定地に南北５ｍ×東西５ｍの調査区を設定し、重機により盛土を除去した。表土下50cmまで調査区規模で掘削を実施し、それ以下は安全面を考慮し南北４ｍ×東西３ｍに調査区を縮小した。盛土及び水田耕作土（Ⅰ層）を除去後、Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。平面図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。



第31図　第210次調査区位置図

(2) 基本層序

調査区は、盛土が約110～130cmあり、その下に水田耕作土であるⅠa・Ⅰb層があり、さらにその下のⅡ層で遺構検出作業を行なった。

Ⅰa層　2.5GY2/1黒色粘土質シルト。層厚10～18cm。水田耕作土。

Ⅰb層　2.5GY3/1暗オリーブ灰色粘土質シルト。層厚６～14cm。水田耕作土。

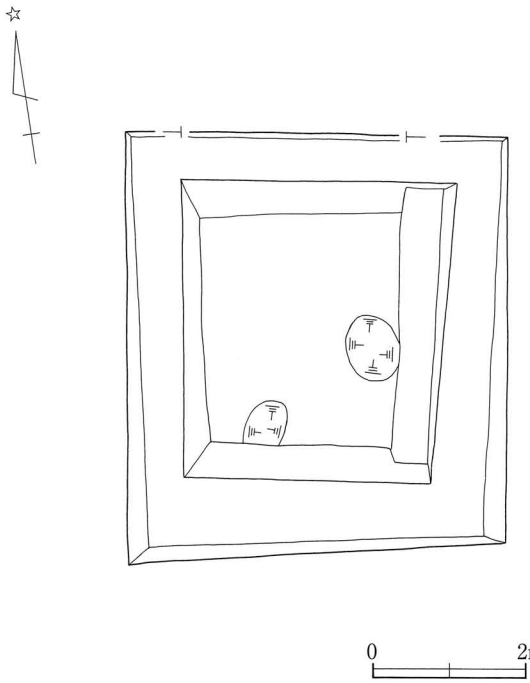
Ⅱ層　10YR4/6褐色粘土質シルト。層厚20cm以上。酸化鉄粒を少量含む。一部グライ化。

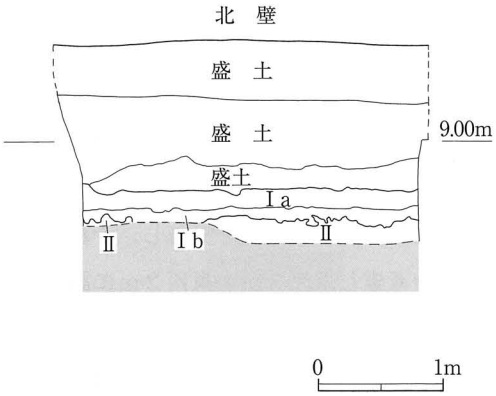
3．発見遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物は盛土中から土師器小片１点、陶器小片１点が出土した。

4．まとめ

Ⅱ層上面で遺構検出作業を行なったが、遺構や遺物は検出されなかった。Ⅱ層は、本調査区の北側隣地で実施した第91次調査のⅢ層に対応すると考えられる。後世の耕作や土木工事等によりⅡ層上面は撹乱を受け、遺構は削平されてしまったものと推定される。





	層位	色　調	土　質	備　　考
基本層	Ⅰa	2.5GY2/1黒色	粘土質シルト	
	Ⅰb	2.5GY3/1暗オリーブ灰色	粘土質シルト	
	Ⅱ	10YR4/6褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒を少量含む。一部グライ化。

第32図　第210次調査区平面図（S=1/100）・北壁断面図（S＝1/60）

1．調査区全景（南から）

2．北壁断面（南から）

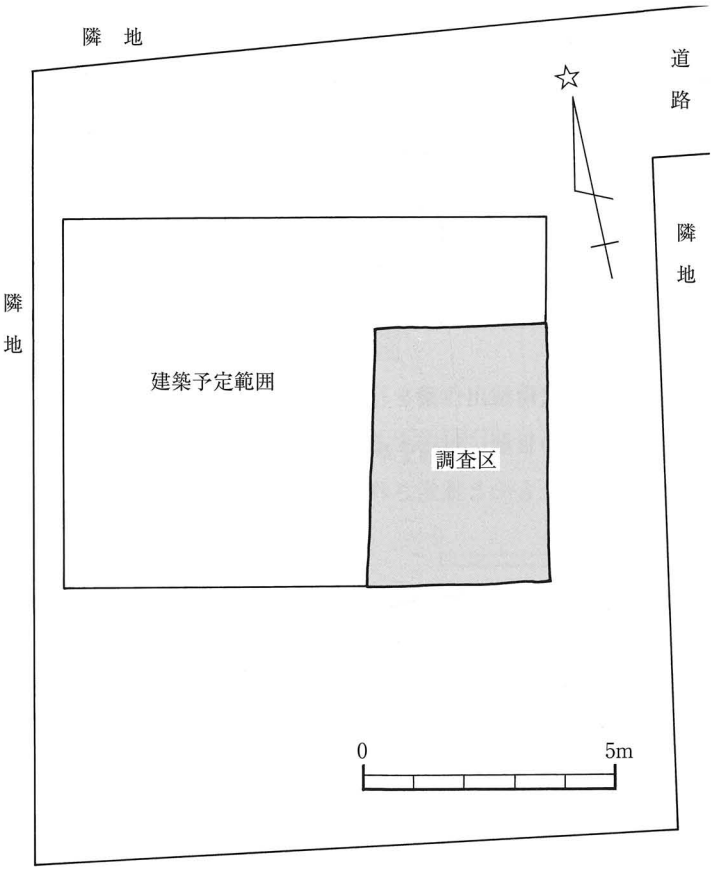
写真図版８　第210次調査区

Ⅵ．郡山遺跡第211次発掘調査

１．調査経過

第211次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年８月25日付で仙台市太白区郡山２丁目51－５における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が破壊されると想定されたため、調査を実施することとした。調査地点は方四町Ⅱ期官衙の西地区の大溝西辺から西に約30mの地点に位置している。

調査は平成23年９月27日から実施し、遺構検出作業を行なった。９月28日に調査を終了し、翌29日に重機により埋め戻しを行った。

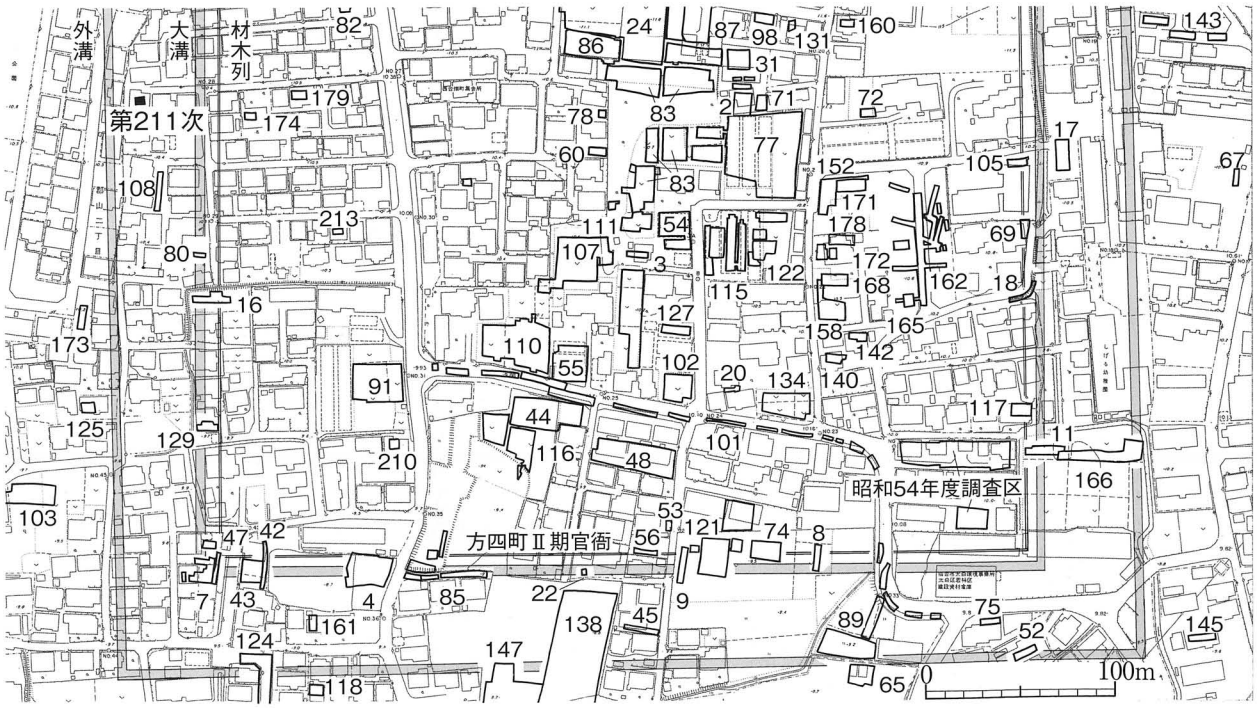


第33図　第211次調査区配置図

２．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

建築予定地に南北５ｍ×東西４ｍの調査区を設定し、重機により盛土を除去した。表土下約１ｍまで調査区規模で掘削を実施し、それ以下は安全面を考慮し南北３ｍ×東西２ｍに調査区を縮小した。盛土及び水田耕作土（Ⅰ層）を除去後、Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。平面図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。写真はデジタルカメラを使用した。



第34図　第211次調査区位置図

(2) 基本層序

調査区は、盛土が約130cmあり、その下に水田耕作土であるⅠa・Ⅰb・Ⅰc層があり、さらにその下のⅡ層で遺構検出作業を行なった。

Ⅰa層　2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト。層厚10～15cm。水田耕作土。

Ⅰb層　2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト。層厚0～5cm。水田耕作土。

Ⅰc層　N3/0暗灰色粘土質シルト。層厚5～20cm。水田耕作土。

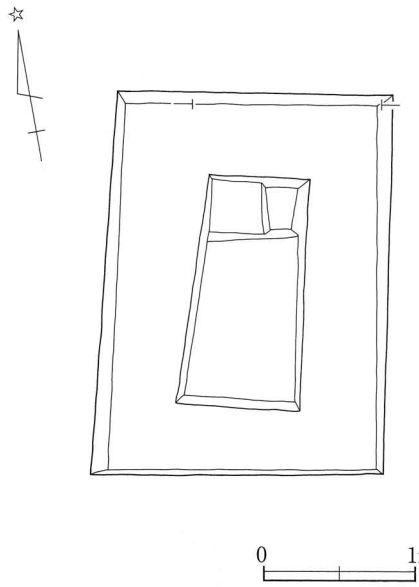
Ⅱ層　5G5/1緑灰色砂質シルト。層厚50cm以上。酸化鉄を下層にラミナ状に少量含む。

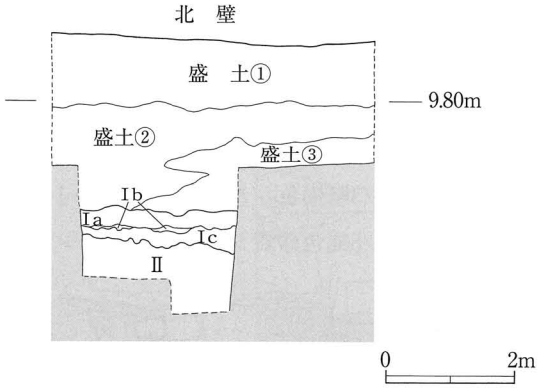
3．発見遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物はⅠc層から土師器甕の口縁部破片が出土した。

4．まとめ

本調査地点の近くには、大正末年から昭和30年代にかけて操業していたレンガ工場があったことが知られている。本調査地点の南部で行われた第108次調査では、レンガ生産のための土取りが原因と考えられる掘削によって、遺構がほとんど削平された状況であった。第108次調査区に近い本調査地点も同様の原因で遺構が削平されてしまったものと推測される。





	層　位		色　調	土　質	備　　考
基本層	Ⅰa	水田耕作土	2.5GY4/1オリーブ灰色	粘土質シルト	
	Ⅰb	水田耕作土	2.5GY5/1オリーブ灰色	粘土質シルト	
	Ⅰc	水田耕作土	N3/0暗灰色	粘土質シルト	
	Ⅱ		5G5/1緑灰色	砂質シルト	酸化鉄を下層にラミナ状に少量含む。

第35図　第211次調査区平面図（S＝1/100）・断面図（S＝1/60）

1．調査区全景（北から）

2．調査区北壁断面（南から）

写真図版９　第211次調査区

Ⅶ．第212次発掘調査

１．調査経過

第212次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年９月22日付で仙台市太白区郡山５丁目65－８、65－９、150－14、150－15における住宅建築に伴う発掘届が提出された。本件は、届出の工事計画の内容から、本来は立会調査対応となるものであったが、申請後の地盤調査の結果によっては基礎掘削深度が変更となる可能性があった。工事箇所は、これまで郡山廃寺の塔跡推定地とされてきたことから、事前に地表下の状況を確認し、基礎設計の変更となった場合に遺構の保存を図ることを目的として実施した。調査は平成23年10月19日から実施し、遺構検出作業を行なった。当日中に調査を終了し、重機により埋め戻しを行った。

２．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

新築される個人住宅の基礎に影響を及ぼさないよう、調査は住宅の範囲外に１ｍ四方の調査区を２箇所設定して行なった。重機により盛土及び耕作土（Ⅰ層）を除去し、基本層であるⅡ層上面で遺構検出作業を行った。平面図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。

(2) 基本層序

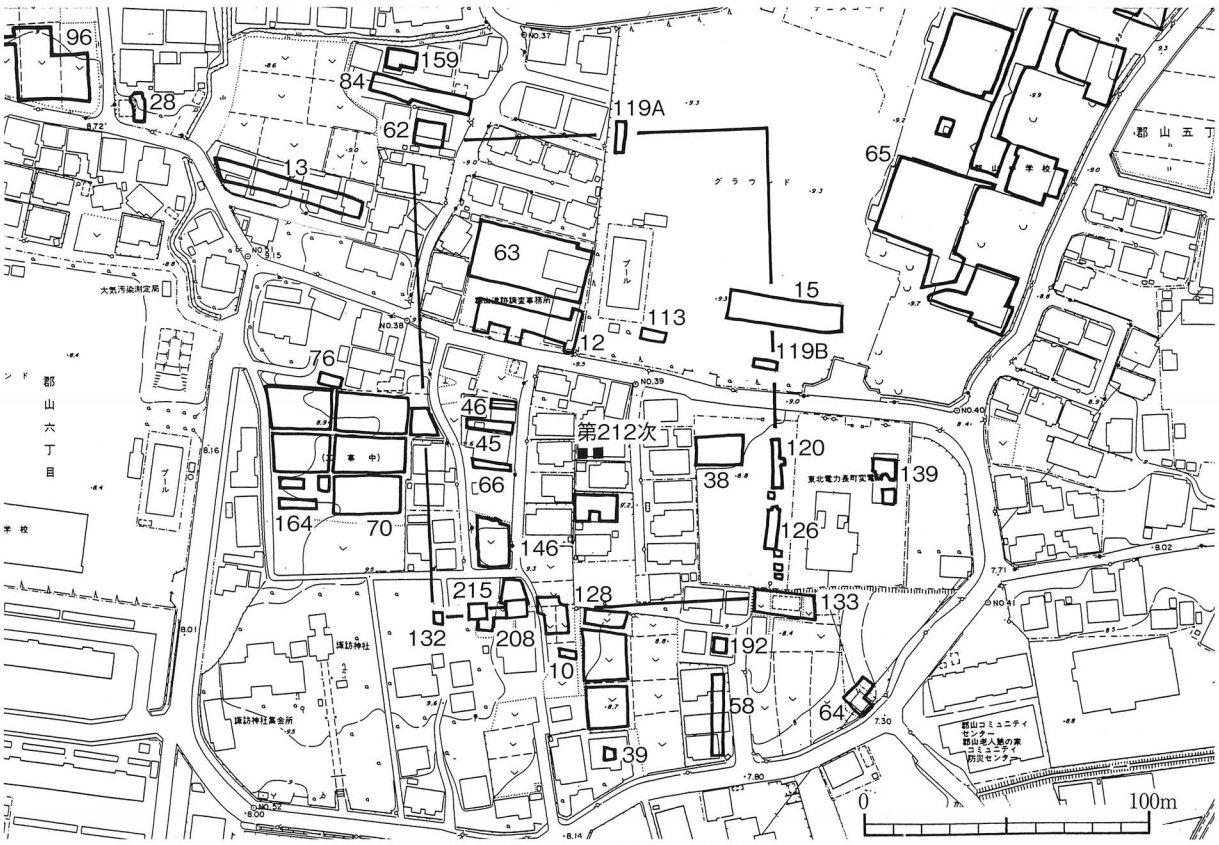
調査区は、盛土が約60cmあり、その下に旧耕作土であるⅠa・Ⅰb・Ⅰc層があり、さらにその下のⅡ層上面で遺構検出作業を行なった。

Ⅰa層　10YR4/1褐灰色シルト。層厚0～30cm。

Ⅰb層　10YR5/6黄褐色シルト。層厚10～18cm。

Ⅰc層　10YR3/3暗褐色シルト。層厚。6～14cm。

Ⅱ層　10YR4/6褐色砂質シルト。マンガン粒を多く含む。



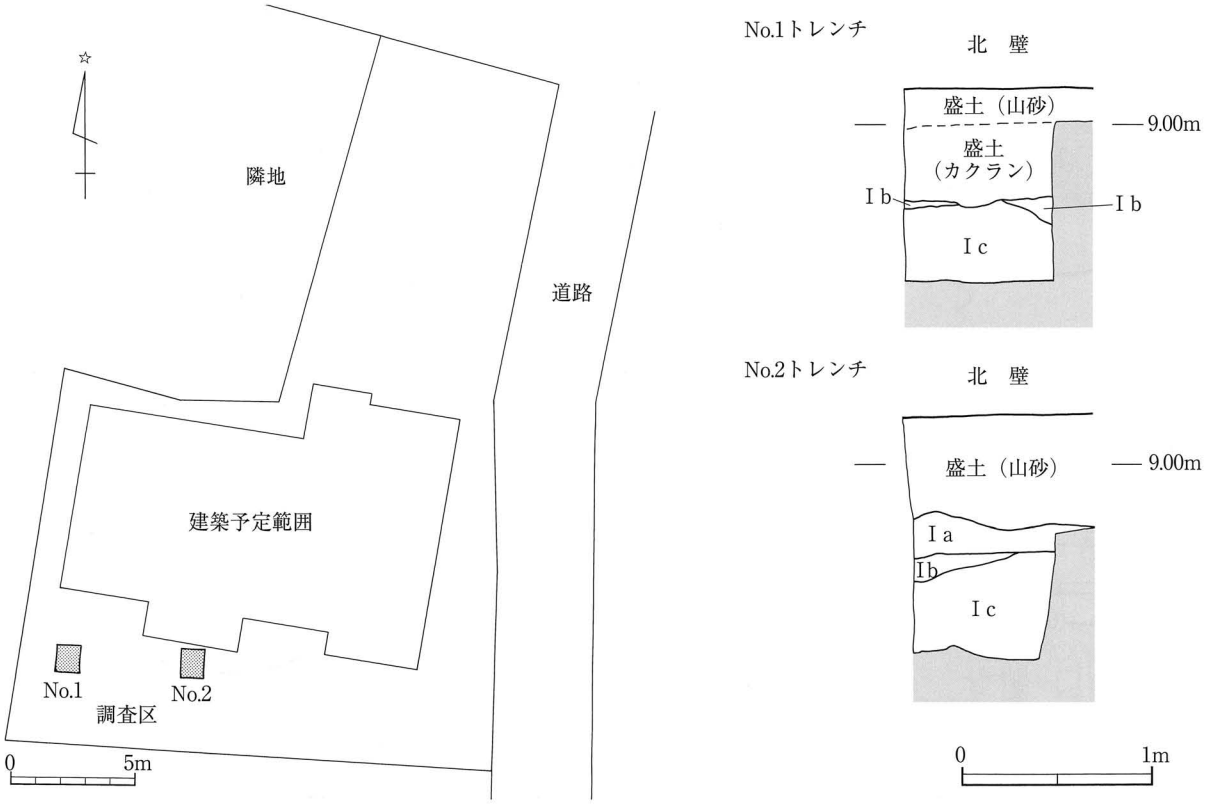
第36図　第212次調査区配置図

3．発見遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物はＩc層中から瓦片８点が出土した（第38図１～６）。出土した瓦片は、凹面に布目痕、凸面は縄叩き後ナデやケズリによる調整が施されるもので、これまで郡山廃寺で出土したものと同様の特徴を持っている。

4．まとめ

本調査では、郡山廃寺に関わる遺構は検出されなかった。講堂基壇が検出された第12次調査では、基壇版築の最下層の標高が8.55mに対し、本調査区では8.0～8.2mで基本層（Ⅱ層）が検出された。本調査地点は、耕作による天地返しが深く及び、古代の遺構が削平されている可能性が考えられる。

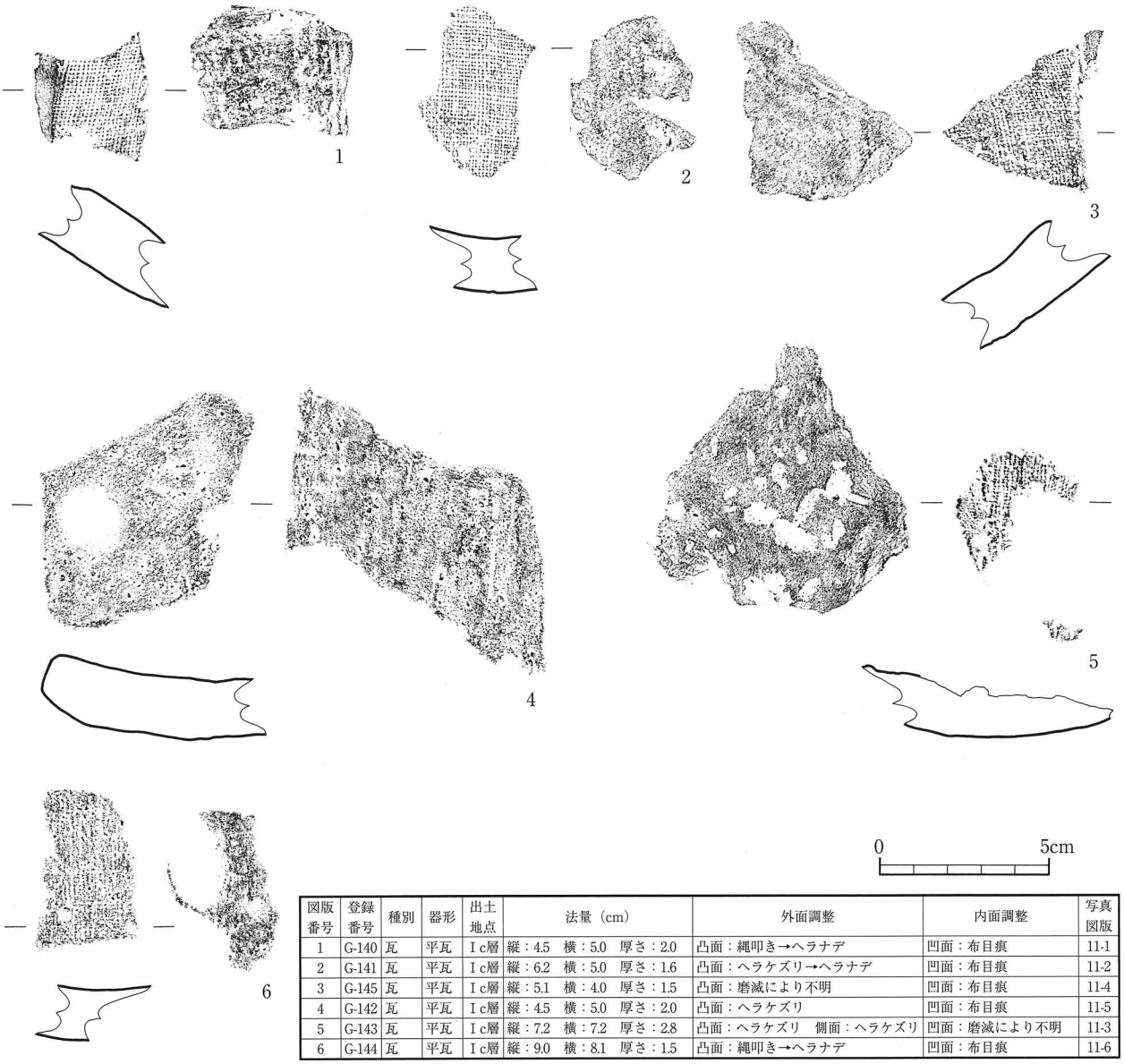


第37図　第212次調査区配置図（S=1/300）・北壁断面図（S=1/40）

1．No.1トレンチ北壁断面（南から）

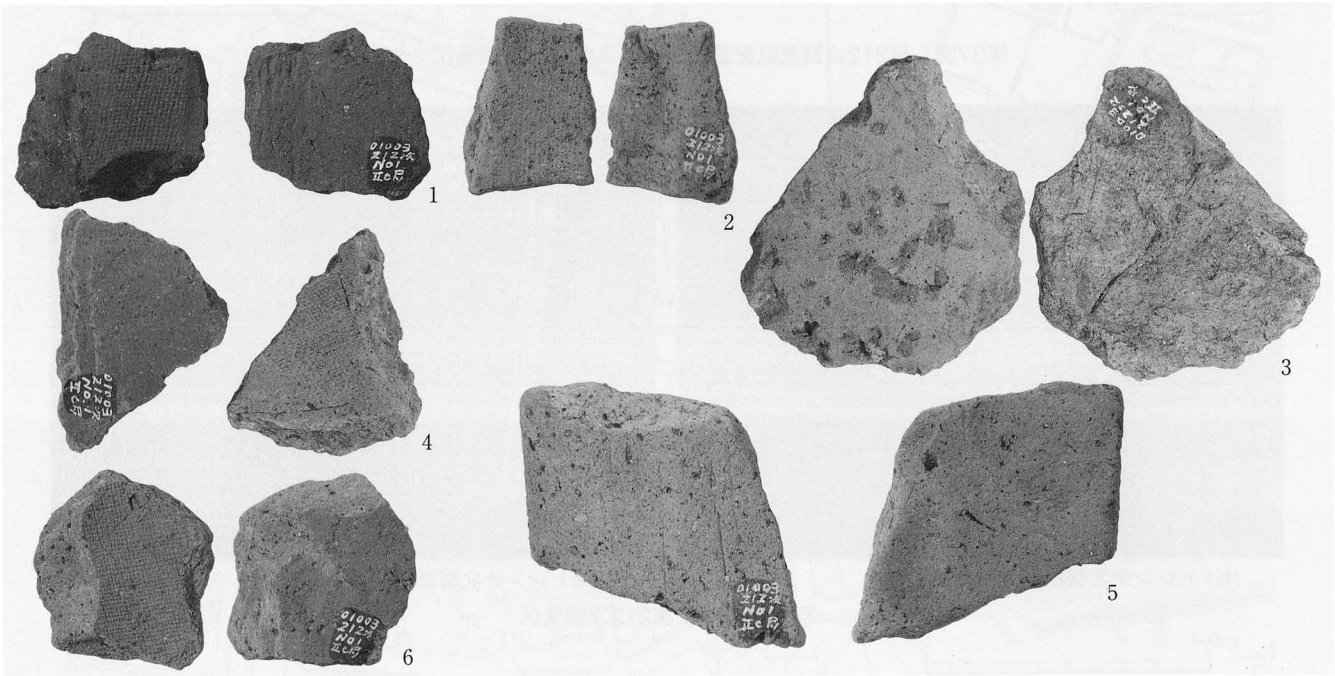
2．No.2トレンチ北壁断面（南から）

写真図版10　第212次調査区



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点	法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	G-140	瓦	平瓦	Ⅰc層	縦：4.5　横：5.0　厚さ：2.0	凸面：縄叩き→ヘラナデ	凹面：布目痕	11-1
2	G-141	瓦	平瓦	Ⅰc層	縦：6.2　横：5.0　厚さ：1.6	凸面：ヘラケズリ→ヘラナデ	凹面：布目痕	11-2
3	G-145	瓦	平瓦	Ⅰc層	縦：5.1　横：4.0　厚さ：1.5	凸面：磨滅により不明	凹面：布目痕	11-4
4	G-142	瓦	平瓦	Ⅰc層	縦：4.5　横：5.0　厚さ：2.0	凸面：ヘラケズリ	凹面：布目痕	11-5
5	G-143	瓦	平瓦	Ⅰc層	縦：7.2　横：7.2　厚さ：2.8	凸面：ヘラケズリ　側面：ヘラケズリ	凹面：磨滅により不明	11-3
6	G-144	瓦	平瓦	Ⅰc層	縦：9.0　横：8.1　厚さ：1.5	凸面：縄叩き→ヘラナデ	凹面：布目痕	11-6

第38図　出土遺物（S=1/2）



写真図版11　第212次調査区出土遺物

Ⅷ．第213次発掘調査

１．調査経過

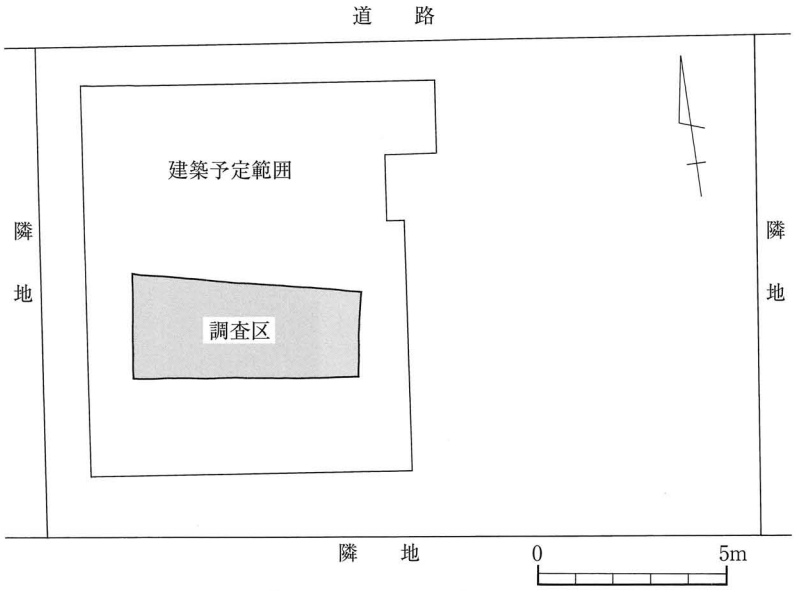
第213次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年10月27日付で仙台市太白区郡山２丁目58－10、58－11における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が破壊されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査は平成23年11月７日から実施し、遺構検出作業を行なった。当日中に調査を終了し、重機により埋め戻しを行い、翌８日に器材の撤収を行なった。

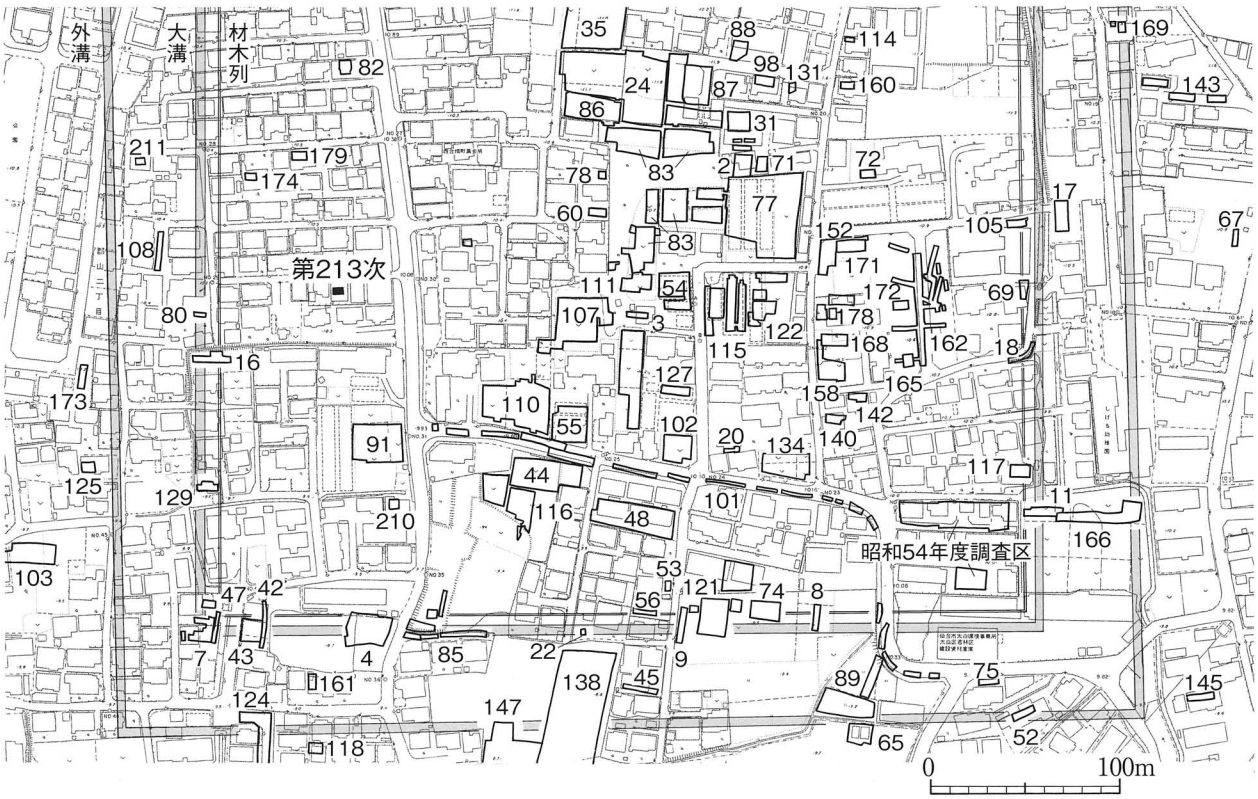
２．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

建築範囲内にそれぞれ南北３ｍ×東西６ｍの調査区を設定し、重機により盛土を除去した。表土下約50cmまで調査区規模で掘削を実施し、それ以下は安全面を考慮し南北1.5ｍ×東西４ｍに調査区を縮小した。盛土及び水田耕作土（Ⅰ層）を除去後、Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。平面図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。写真はデジタルカメラを使用した。



第39図　第213次調査区設定図（S＝1/200）



第40図　第213次調査区位置図

(2) 基本層序

調査区は、盛土が約90cmのあり、その下に水田耕作土であるⅠa・Ⅰb・Ⅰc層があり、さらにその下のⅡ層で遺構検出作業を行なった。

Ⅰa層　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト。層厚0～15cm。水田耕作土。

Ⅰb層　5B2/1青黒色粘土質シルト。層厚0～15cm。水田耕作土。

Ⅰc層　N3/0暗灰色粘土質シルト。層厚10～25cm。水田耕作土。

Ⅱ層　5G5/1緑灰色砂質シルト。層厚30～35cm。

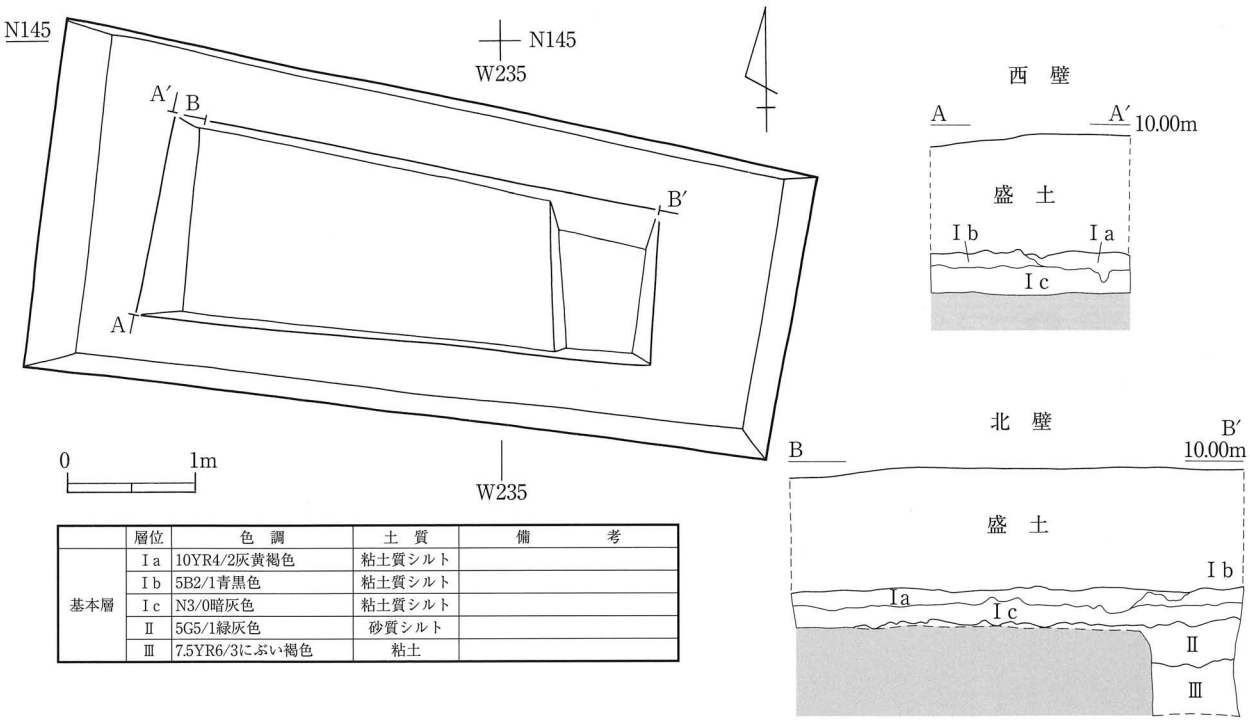
Ⅲ層　7.5YR6/3にぶい褐色粘土。層厚40cm以上。

3．発見遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物はⅠc層中からC-1115土師器甕（第42図１）が出土した。

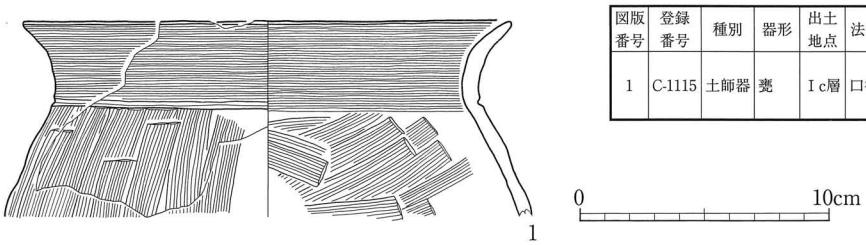
4．まとめ

本調査区では、水田耕作土の直下約1.3mの深さで基本層を確認した。このような状況は第108・211次調査区と同様であり、レンガ生産による土取りが原因となって遺構が削平されたものと考えられる。



	層位	色　調	土　質	備　　考
基本層	Ⅰa	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	
	Ⅰb	5B2/1青黒色	粘土質シルト	
	Ⅰc	N3/0暗灰色	粘土質シルト	
	Ⅱ	5G5/1緑灰色	砂質シルト	
	Ⅲ	7.5YR6/3にぶい褐色	粘土	

第41図　調査区平・断面図（S＝1/60）



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点	法量（cm）	外面調整	内面調整	写真図版
1	C-1115	土師器	甕	Ⅰc層	口径：19.6	口縁部：ヨコナデ 体部：ハケメ	口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ 漆仕上げ？	12－3

第42図　第213次出土遺物

1．調査区全景（東から）

2．調査区西壁（東から）

3．C-1115土師器甕　Ⅰb層出土

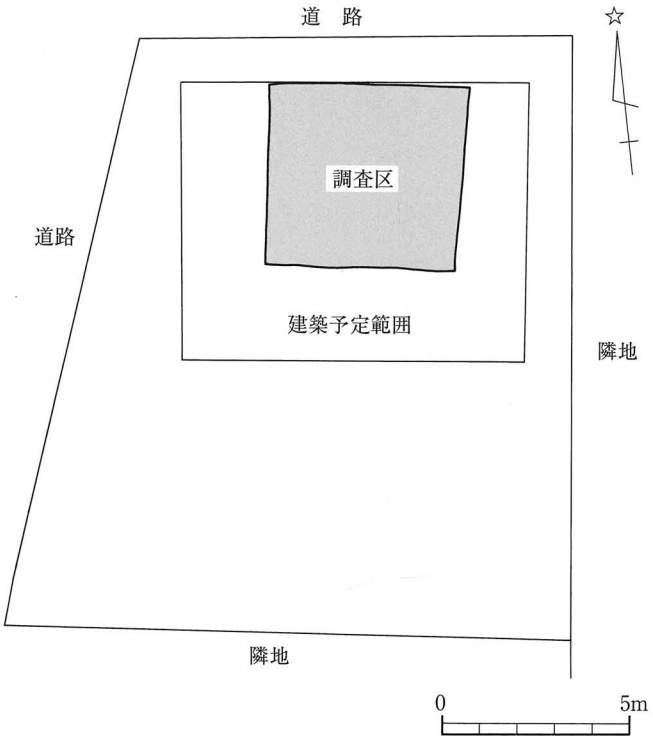
写真図版12　第213次調査区及び出土遺物

Ⅸ．第214次発掘調査

１．調査経過

第214次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年11月７日付で仙台市太白区郡山３丁目23－11における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査は平成23年12月５日から実施し、遺構検出作業を行なった。当日中に調査を終了し、重機により埋め戻しを行なった。

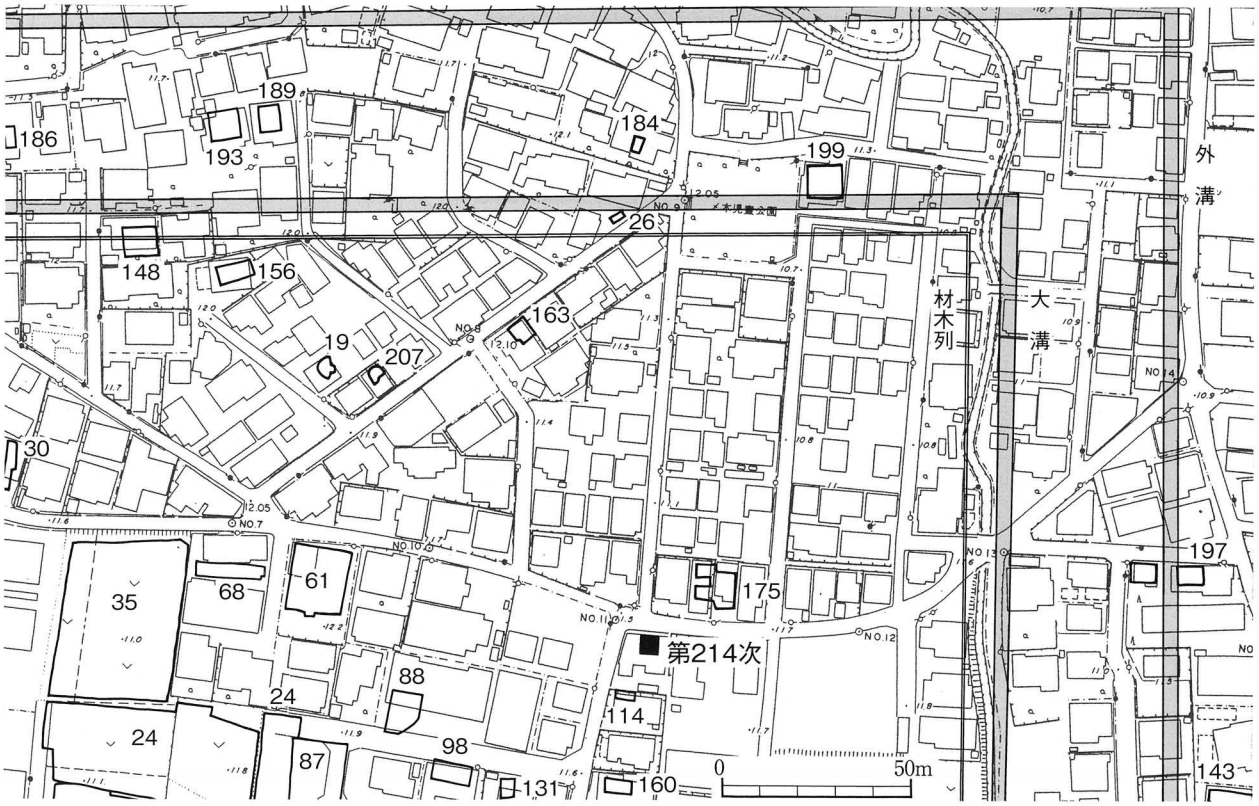


第43図　第214次調査区配置図（S＝1/200）

２．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

建築範囲内にそれぞれ南北５ｍ×東西５ｍの調査区を設定し、重機により盛土及び石炭ガラ約190cmを除去した。それ以下は安全面を考慮し南北２ｍ×東西２ｍに調査区を縮小し、水田耕作土（Ⅰ層）を除去した。その後、基本層Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。平面図は縮尺1/40、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。



第44図　第214次調査区位置図

(2) 基本層序

調査区は、盛土が約1.9mあり、その下に旧水田耕作土であるⅠa・Ⅰb層があり、さらにその下のⅡ層上面で遺構検出作業を行なった。

Ⅰa層　7.5Y2/1黒色砂質シルト。層厚14～23cm。水田耕作土。

Ⅰb層　7.5Y4/1灰色砂質シルト。層厚15～30cm。酸化鉄ブロックを下層に多量に含む。水田耕作土。

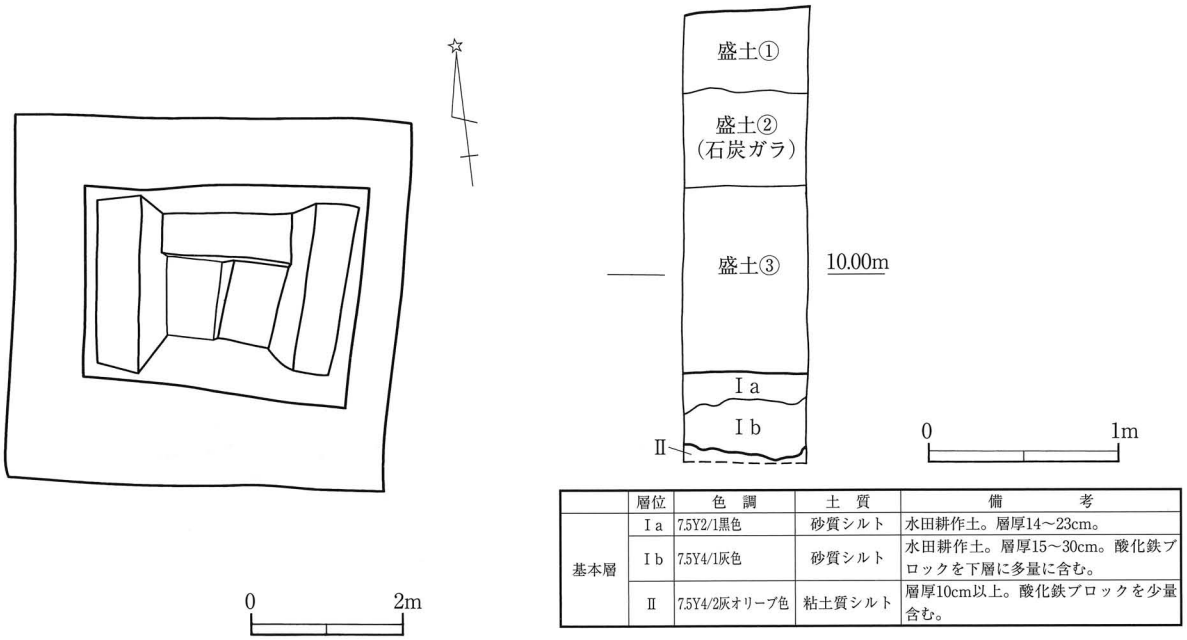
Ⅱ層　7.5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト。層厚10cm以上。

3．発見遺構と出土遺物

遺構・遺物は発見されなかった。

4．まとめ

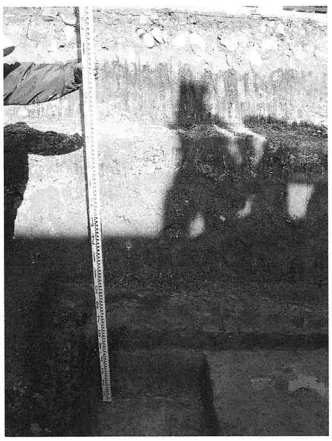
本調査区では、水田耕作土の直下約1.9mの深さで基本層を確認した。このような状況は北側隣地で実施した第114次調査区と同様であり、レンガ生産による土取りが原因となって遺構が削平されたものと考えられる。



	層位	色調	土質	備考
基本層	Ⅰa	7.5Y2/1黒色	砂質シルト	水田耕作土。層厚14～23cm。
	Ⅰb	7.5Y4/1灰色	砂質シルト	水田耕作土。層厚15～30cm。酸化鉄ブロックを下層に多量に含む。
	Ⅱ	7.5Y4/2灰オリーブ色	粘土質シルト	層厚10cm以上。酸化鉄ブロックを少量含む。

第45図　調査区平面図（S＝1/100）・北壁柱状図（S＝1/40）

1．調査区全景（東から）



2．調査区北壁（南から）

写真図版13　第214次調査区

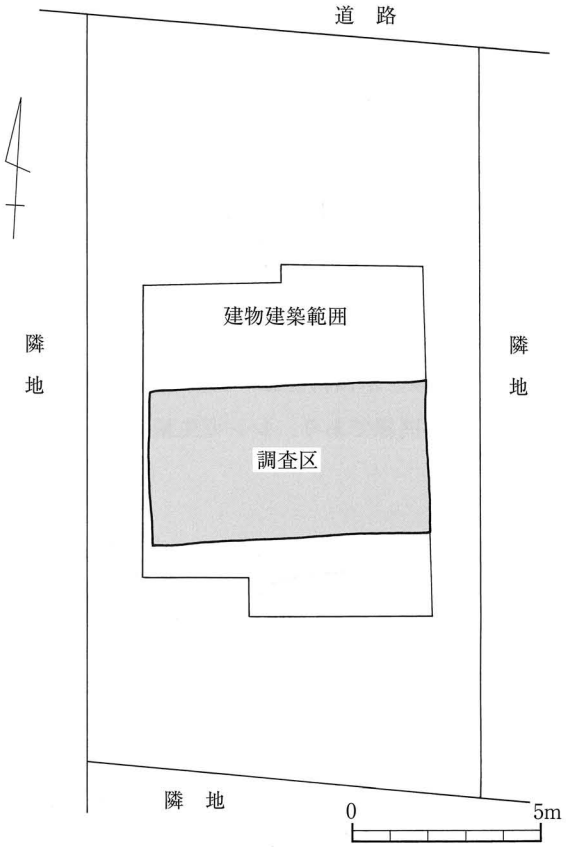
X．第215次発掘調査

1．調査経過

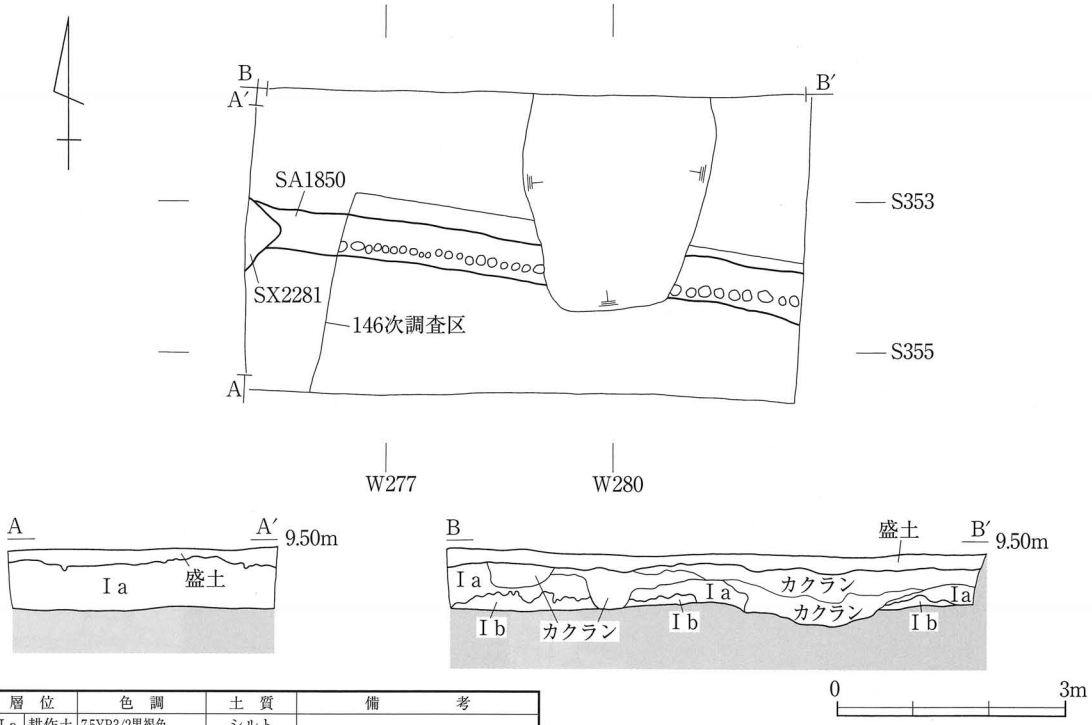
第215次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年11月30日付で仙台市太白区郡山５丁目148－34における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅建築における杭打ち工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査地点は、郡山廃寺の南部にあたる。第146次調査区と一部重複し、第208次調査の西に隣接する。遺跡内での位置は第25図を、第146・208次調査区との位置関係は第26図を参照されたい。

調査は平成23年12月６日から実施した。調査の中で、郡山廃寺南辺に関連する材木列を検出したため、遺構の保存協議を行った。12月19日に代理人と遺構保存について協議したところ、遺構への杭打ちを回避する設計変更の承諾が得られた。翌20日に、埋め戻しを行い、材木列の位置を明示した上で調査を終了した。



第46図　第215次調査区配置図（S＝1/200）



	層　位		色　調	土　質	備　　考
基本層	Ⅰa	耕作土	7.5YR3/2黒褐色	シルト	
	Ⅰb	耕作土	10YR6/6明黄褐色	シルト	Ⅰa層土ブロックを多量に含む。
	Ⅱ		10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	

第47図　第215次調査区平面図（S＝1/100）・断面図（S＝1/60）

2．調査方法と基本層序

(1) 調査方法

建物建築範囲の南東部は、第146次調査で遺跡の範囲確認調査を行っており、今回の調査は未調査部分の北西部を対象とした。建築範囲内にそれぞれ南北４ｍ×東西7.5mの調査区を設定し、重機により盛土およびⅠ層を除去後、Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。遺構検出後、保存協議を行なうため、遺構を掘り込んでの調査は行わなかった。平面図は縮尺1/40、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。

(2) 基本層序

調査区は、盛土が約20cmあり、その下に旧耕作土であるⅠa・Ⅰb層がある。さらにその下のⅡ層上面で遺構が検出された。

Ⅰa層　7.5YR3/2黒渇色シルト。層厚0～65cm。旧畑耕作土。

Ⅰb層　10YR6/6明黄褐色シルト。層厚0～25cm。Ⅰa層ブロックを多く含む。旧畑耕作土。

Ⅱ層　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト。

3．発見遺構と出土遺物

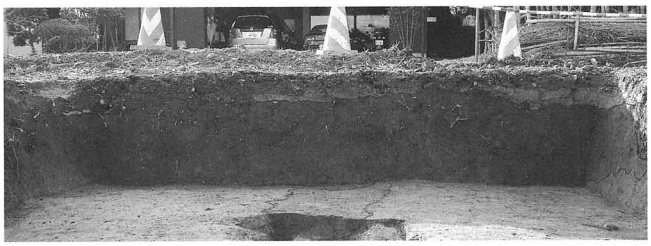
材木列１列、性格不明遺構１基を検出した。遺物は、土師器片、瓦片が出土している。

【SA1850材木列】調査区中央で検出した。第146次調査Ｃ・Ｄ区及び第208次調査で検出されている材木列の延長である。検出長は7.3mで、そのうち1.2mを今回の調査で検出した。SX性格不明遺構と重複関係があり、それよりも古い。この材木列は、郡山廃寺の南辺となる材木列であることが判明している。協議の結果、保存が図られることとなったため、遺構の検出に留め、掘り込み等は行わなかった。

4．まとめ

第146次調査及び第208次調査で検出された郡山廃寺南辺となるSA1850材木列の延長が検出された。材木列は、遺構保存協議の結果、保存されることとなった。

1．調査区全景（東から）



2．西壁断面（東から）

3．北壁断面（南から）

写真図版14　第215次調査区

第３章　与兵衛沼窯跡

１．調査経過と調査方法

平成23年度に予定していた与兵衛沼公園内での電磁探査による分布調査は、東日本大震災により延期となった。そのような中で、震災によって与兵衛沼の水利施設が破損し、水位が下がり底面が露出したことで、沼北岸に窯跡が確認された。現地踏査を行ったところ、瓦の分布が広範囲に見られ、さらに多くの窯跡が発見された。現地にて、平成23年６月26日と８月４日に遺構の分布を確認する調査を実施するに至った。光波トランシットを使用して測量図を作製し、記録写真はデジタルカメラを使用した。

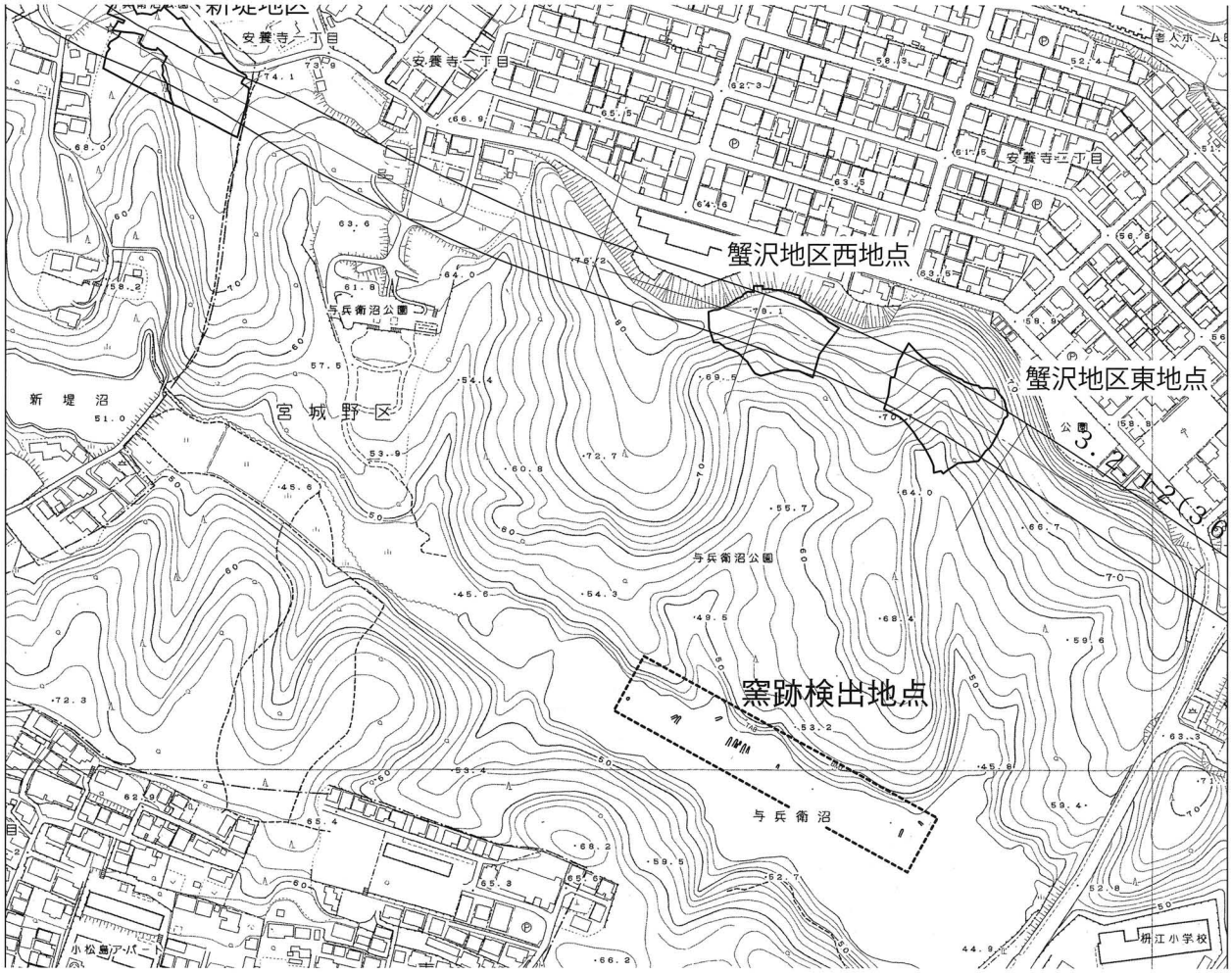
調査終了後、新たに確認したすべての窯跡を、与兵衛沼を含む与兵衛沼公園の管理部署である宮城野区公園課に依頼し、ブルーシートで保存した。なお、これらの成果をもとに、11月28日に郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会を開催し、現地視察を実施した。

２．発見遺構と出土遺物

与兵衛沼北岸で東西・約220m、南北約20mの範囲に13基の窯跡を確認した。いずれも残存状態は良好ではなく、焼成部床面の一部が丸瓦・平瓦と伴に多数露出した状態であった。窯跡からは瓦片をサンプルとして採集した。

３．まとめ

これらの窯跡の基数やグルーピング、その年代や窯跡間の前後関係を検討するため、来年度遺構の確認調査を実施する予定である。



第48図　与兵衛沼窯跡調査区位置図

－註－

(1) 仙台市教育委員会2005「第６章　考察　第１節　出土遺物３．瓦」『郡山遺跡発掘調査報告書総括編（1)』仙台市文化財調査報告書第283集p.p258～261の 分類基準による。
F-105軒丸瓦は、蓮子や子葉の形状が明瞭ではなく、笵の状態が良好ではない可能性が考えられる。

(2) これまでの出土例では、G－1（第12次調査)、G－28（第46次調査)、G－48（第63次調）などが出土しており、これらと同類のものと考えられる。凸面に波状文の入る平瓦は軒平瓦として使用された可能性がある。

(3) 本文中の「関東系土師器」という用語については、関東地方の土師器編年でいう「鬼高式」の土師器坏の特徴のあるものを含んでいる。

(4) 長島榮一2000「仙台市郡山遺跡出土の平瓦をめぐって」『阿部正光君追悼集』阿部正光君追悼集刊行会　による。

－引用・参考文献－

佐川正敏・高橋誠明・高松俊雄・長島榮一　2005「8　陸奥の山田寺系軒瓦」『古代瓦研究Ⅱ－山田寺式軒瓦の成立と展開－』奈良文化財研究所　p.p240～242

仙台市教育委員会　1981「第12次調査」『郡山遺跡Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第38集

仙台市教育委員会　1995「第108次調査」『郡山遺跡ⅩⅥ』仙台市文化財調査報告書第210集

仙台市教育委員会　1996「第114次調査」『郡山遺跡ⅩⅦ』仙台市文化財調査報告書第227集

仙台市教育委員会　1991「第91次調査」『郡山遺跡ⅩⅡ』仙台市文化財調査報告書第161集

仙台市教育委員会　2003「第156次調査」『郡山遺跡24』仙台市文化財調査報告書第263集

仙台市教育委員会　2005『郡山遺跡発掘調査報告書　総括編（1)』仙台市文化財調査報告書第283集

近つ飛鳥博物館　2006『年代のものさし―陶邑の須恵器―』大阪府立近つ飛鳥博物館図録40

長島榮一　2000「仙台市郡山遺跡出土の平瓦をめぐって」『阿部正光君追悼集』阿部正光君追悼集刊行会　松弘堂　p.p101～113

長島榮一　2009「官衙からみた関東系土師器」『古代社会と地域間交流－土師器からみた関東と東北の様相－』国士舘大学考古学会編　六一書房　p.p125～140

西　弘海　1986『土器様式の成立と展開』真陽社

第４章　調査成果の普及と関連活動

１．主な広報・普及・協力活動

年月日	行事名称	担当	主催
2011.　7．12	郡山遺跡美化活動	整備活用係	仙台市立東長町小学校６年生・ 文化財課
10.　26	郡山遺跡ピロティ見学	整備活用係	ディスカバーたいはく　区内探訪会
11.　8～10	職場体験学習	佐藤（正）・大久保	仙台市立袋原中学校２年生
11.　14～17	職場体験学習	佐藤（正）・大久保	仙台市立柳生中学校２年生
11.　16～18	職場体験学習	佐藤（正）・大久保	仙台市立郡山中学校２年生
11.　17	職場体験学習	佐藤（正）・大久保	仙台市立松陵中学校２年生
11.　18	職場体験学習	佐藤（正）・大久保	仙台市立富沢中学校２年生
2012.　1．16～20	職場体験学習	佐藤（正）・大久保	仙台市立八軒中学校２年生
2011.　4．8～ （毎月８日）	薬師堂手づくり市	整備活用係	薬師堂手づくり市実行委員会

２．調査指導委員会の開催

○平成23年度　第１回　郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会

平成23年11月28日　　仙台市役所第３会議室・若林区役所第１会議室

・与兵衛沼窯跡調査現地指導（平成23年11月25日・28日・12月１日）

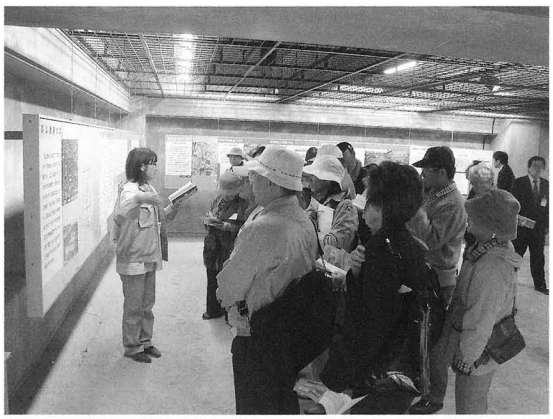
○平成23年度　第２回　郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会

平成24年３月21日　　仙台市役所北庁舎５階第３会議室

・平成23年度調査成果について

・平成24年度調査計画について

・次期委員会について



ピロティ見学風景

郡山遺跡美化活動

報　告　書　抄　録

ふりがな	こおりやまいせき
書名	郡山遺跡32
副書名	平成23年度発掘調査概報　　郡山遺跡・与兵衛沼窯跡
巻次	32
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第406集
編著者名	長島栄一、大久保弥生、佐藤正弥
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）
所在地	〒980-0802　宮城県仙台市青葉区二日町二丁目1－1　　TEL022（214）8893～8894
発行年月日	2012年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間		調査面積（㎡）	調査原因
郡山遺跡（こおりやまいせき）	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし）太白区郡山（たいはくくこおりやま）	4100	1003	38°12′58″	140°53′41″	204次	2011.4.12～2011.4.13		
						205次	2011.5.9～2011.6.6	67㎡	個人住宅建築
						207次	2011.6.20～2011.6.21	6㎡	個人住宅建築
						208次	2011.7.13～2011.9.21	44㎡	個人住宅建築
						210次	2011.9.22～2011.9.26	12㎡	個人住宅建築
						211次	2011.9.27～2011.9.29	6㎡	個人住宅建築
						212次	2011.10.19	2㎡	個人住宅建築
						213次	2011.11.7	6㎡	個人住宅建築
						214次	2011.12.5	4㎡	個人住宅建築
						215次	2011.12.6～2011.12.20	30㎡	個人住宅建築
与兵衛沼窯跡（よへえぬまかまあと）	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし）宮城野区蟹沢（みやぎのくかにさわ）	4100	1134	38°16′54″	140°54′18″	2011.6.24 2011.8.4			重要遺跡の遺構確認調査ほか

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郡山遺跡	官衙跡 寺院跡 集落跡	飛鳥～平安	・材木列・柱列 ・掘立柱建物 ・住居跡・溝跡	・礫石器・土師器 ・須恵器・瓦・金属製品	・郡山廃寺南辺材木列 ・Ⅰ期官衙一本柱列 ・Ⅱ期官衙掘立柱建物跡
与兵衛沼窯跡	窯跡	奈良～平安	・窯跡	・平瓦	

要約	第205次では、Ⅰ期官衙の一本柱列、Ⅱ期官衙の掘立柱建物跡が検出された。一本柱列は、郡山遺跡Ⅰ期官衙の西辺となる可能性がある。 第208次・第215次調査では、住宅建築範囲内で郡山廃寺南辺材木列が検出された。設計変更の協議により、遺構が保存されることとなった。

仙台市文化財調査報告書第406集

郡　山　遺　跡　32

平成23年度発掘調査概報
郡山遺跡・与兵衛沼窯跡

2012年３月

発行　仙　台　市　教　育　委　員　会
仙台市青葉区二日町１－１
文化財課 TEL 022（214）8893

印刷　モ　リ　タ　印　刷　株式会社
仙台市太白区郡山八丁目20－30
TEL 022（246）0105